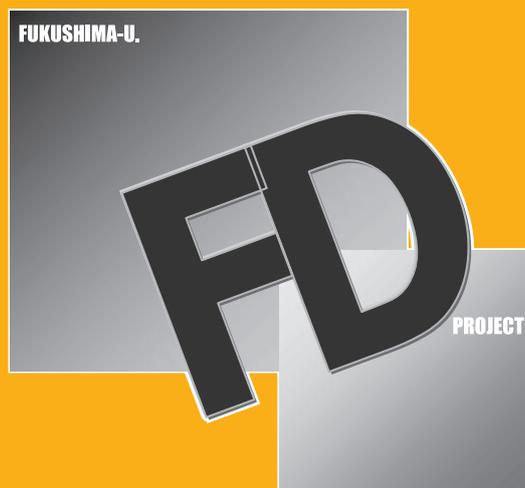


平成 25 年度 (2013 年度)

福島大学 F D 活動報告書

～大学教育改善の追求～



2014 年 3 月

福島大学教育企画委員会



1.はじめに（本報告書の概要）

本報告書は、2013年度に行われた福島大学におけるFD活動について、主に全学的な取組を中心にまとめたものである。福島大学におけるFD活動は、2001年度から2012年度にかけて、FDプロジェクト委員会の下、『FDプロジェクト活動報告書』としてまとめられてきた。今年度より、FDプロジェクト委員会が教育企画委員会に統合されたことをうけ、本報告書も『FD活動報告書』に名前を変えているが、基本的な方針、内容は『FDプロジェクト活動報告書』と同様である。以下、本報告書の各章の内容について簡単に触れておきたい。

第2章の「授業公開&検討会」は、今年度実施された授業公開（5件）の報告である。各授業担当の先生より、授業報告をご寄稿いただいた。第3章の「他大学FD研修等参加」は、2013年度に総合教育研究センター高等教育開発部門として参加した他大学のFD研修等の一覧である。第4章の「FD・SDジョイントセミナー」は今年度実施した2回のセミナー（第1回「遠隔教育の可能性」、第2回「プロが教える「伝え方・聞き方」」）の報告である。第5章の「FD宿泊研修」は、2013年9月28・29日に行われた合宿の報告である。今年度は「大学で身につける（身につけさせる）べき能力とは」をテーマとして、教員8名、職員8名、学生20名の参加があった。第6章は各学類のFD活動の報告である。教育企画委員会の先生方に、各学類でのFDに関連する取組についてまとめていただいた。第7章には、現代教養コースのFD活動として行われた、平成25年度現代教養コース「教育指導担当者会議」について、会議の場に出された意見をまとめたメモと、会議の際に配布された資料（演習科目の改善のためのアンケート、等）を掲載している。第8章は共通教育におけるFD活動として、平成25年度「自己評価委員会」総括と、「総括のまとめ」勉強会資料を掲載した。第9章は、昨年度に引き続き実施した、LiveCampusを利用した中間アンケートの結果報告である。第10章には、2013年度の「教育改善のための学生アンケート」（授業アンケート）集計結果をまとめている。なお2013年度には、授業アンケートの見直しに向け、平成13年度から平成24年度までの授業アンケートの結果について経年比較を行った。第11章は、この経年比較の結果について、要点を抜粋した内容を掲載している。最後に第12章では、福島大学の演習科目の課題整理を目的に実施した座談会（学生3名、卒業生2名、その他教職員5名参加）の内容を掲載している。

今年度のFD報告書は、従来のFDプロジェクト委員会から継続した取組に加え、現代教養コースや共通教育のFD活動などを含む、より多彩な内容となった。ただし、福島大学において日常的に実施されている授業改善、教育改善の努力は、ここに掲載された内容に止まるものではない。今後は、福島大学における幅広い「FD活動」を改めて整理したうえで、埋もれがちな実践を掘り起していくことが課題となろう。

最後に、本報告書の作成にあたり、ご協力いただいた教職員の方々、また2013年度のFD活動に参加していただいた学生の皆さんに、改めて深く感謝申し上げたい。



平成25年度 福島大学FD活動報告書

～大学教育改善の追求～

目 次

1. はじめに	総合教育研究センター高等教育開発部門 丸山 和昭
2. 授業公開&検討会	
今年度の実施日程	1
第1回授業公開&検討会（授業者 小野原雅夫）授業者からの報告（小野原雅夫）...	2
第2回授業公開（授業者 佐藤理夫）授業者からの報告（佐藤理夫）	4
第3回授業公開&検討会（授業者 富澤克美）授業者からの報告（富澤克美）	6
第4回授業公開&検討会（授業者 川崎興太）授業者からの報告（川崎興太）	8
第5回授業公開（法学専攻入門科目担当者 金井光生、富田 哲、鈴木めぐみ） 授業者担当者からの報告（鈴木めぐみ）	10
授業公開&検討会配布資料.....	12
3. 他大学等FD研修等参加.....	15
4. FD・SD ジョイントセミナー	19
5. FD 宿泊研修	21
6. 各学類のFDの取り組み.....	55
・人間発達文化学類	
・行政政策学類	
・経済経営学類	
・共生システム理工学類	

7. 現代教養コースにおけるFD活動.....	59
8. 共通教育におけるFD活動.....	77
9. LiveCampus を利用した中間アンケート実施結果.....	97
10. 「教育改善のための学生アンケート」集計結果	
「教育改善のための学生アンケート」（前期）集計結果.....	99
「教育改善のための学生アンケート」（後期）集計結果.....	123
11. 平成13年度ー平成24年度 授業アンケート経年比較.....	145
12. 福島大学の演習課題についての学生ヒアリング.....	153

FDワークショップ 授業公開&検討会



今年度の実施日程

● 1回目

- ・日 程：平成 25 年 6 月 21 日（金）2 時限
- ・授 業 者：小野原雅夫 先生（人間発達文化学類）
- ・実施概要：授業公開「倫理学」（M22 教室）
検討会 授業終了後（S24 教室）

● 2回目

- ・日 程：平成 25 年 10 月 29 日（火）4 時限
- ・授 業 者：佐藤理夫 先生（共生システム理工学類）
- ・実施概要：授業公開「化学工学概論」（M22 教室）
検討会 なし

● 3回目

- ・日 程：平成 25 年 11 月 22 日（金）2 時限
- ・授 業 者：富澤克美 先生（経済経営学類）
- ・実施概要：授業公開「経営史」（S36 教室）
検討会 授業終了後（S36 教室）

● 4回目

- ・日 程：平成 26 年 1 月 8 日（水）1 時限
- ・授 業 者：川崎興太 先生（共生システム理工学類）
- ・実施概要：授業公開「生活環境論」（基礎物理学実験室）
検討会 授業終了後（基礎物理学実験室）

● 5回目

- ・日 程：平成 26 年 1 月 16 日（木）3,4 時限
- ・授 業 者：金井光生、富田 哲、鈴木めぐみ（行政政策学類）
- ・実施概要：授業公開「法律討論会」（M24 教室）
検討会 なし

日時 平成25年6月21日(月)2時限
 10:20~11:50 授業公開 (M22 教室)
 11:50~12:30 検討会 (S24 教室)
 授業科目 「倫理学」
 授業者 小野原雅夫 先生 (人間発達文化学類)



授業者からの報告

小野原 雅夫

1. 授業の概要

この科目は共生システム理工学類の樋口良之先生と2人で開講している授業です。前半は樋口先生が科学技術のテーマ(アポロ計画やマンハッタン計画、福島第一原発事故など)を取り上げて、そこにひそむ倫理学的問題を浮かび上がらせていきます。後半は私が脳死臓器移植の問題についてその事実問題(概念定義や歴史的経緯等)と価値問題(よいか悪いか)をディープに語っていきます。「総合科目」という位置づけではありませんが、きわめて文理融合的な内容になっていると自負している講義です。互いにできるかぎり相手の授業を参観するようにして、講義内容に関してばかりでなく授業スタイルに関しても摺り合わせをしながら授業運営をしています。

2. 当日の授業の工夫点

授業公開の当日は樋口先生からバトンタッチした最初の回でした。基本的には昔ながらのチョーク&トークのスタイルで、目新しい工夫は何もしていません。ただ、前半の樋口先生が毎回A4裏表印刷の資料を配付されていたので、私もそれに倣って資料を作成し配付しました。そのおかげで以前より板書が少なくてすみ、事実的な問題はプリントに、そこから浮かび上がってくる倫理学的問題は板書にというような仕分けができたように感じました。もうひとつは毎回の平常点管理のためにミニットペーパーを取り入れているのですが、授業を終えてから質問や感想を書いてもらうのではなく、授業の冒頭で問いを投げかけ全員に記入してもらいました。まず問1「あなたは脳死臓器移植をよいことだと思いますか、悪いことだと思いますか。その理由も書いてください」。これをけっこう時間を取ってみんなに書いてもらった後で、続いて問2「脳死とはどのようなものを説明してください。植物状態とはどう違うと思いますか」。問1はよいか悪いかという価値判断を問うています。学生たちはこれにはけっこうスラスラと答えてくれます。ところがこの価値判断を下す前にきちんと確定しておくべき「脳死とは何か」という事実に関わる問いを出されると、みんな答えに窮して固まってしまいます。つまり、みんな脳死とは何かをよく

知らないまま、脳死臓器移植がよいか悪いかという価値判断を下してしまっている、ということを実感してもらうための意地悪な質問だったわけです。

3. 検討会での質疑応答

授業参観して下さった先生方は9名、検討会に来て下さった方は6名でした。検討会では、やはり私が授業の最初に投げかけた発問に対して感想や意見が集中しました。最初に書かせることによって授業に引き込むことができている、いきなりの問いかけによって価値判断と事実判断の問題がクリアに浮かび上がってきた、といった点を評価していただけたのはありがたいことです。あらかじめ学生に予備的な質問を投げかけ、それについて考えさせておくことによって、学生の興味・関心を喚起し、その後のこちらからの説明に集中し、より深く理解できるよう準備を整わせておくための方法論です。これは講義の最後に書かせる感想や質問とはまったく機能の異なるものです。特に今回は価値判断を書かせた後に事実判断を書かせて相手の意表を衝くという、ちょっと意地悪な出題の仕方をしたので、よけいにインパクトはあったでしょう。先生方からも「自分もまんまと引っかかってしまった」と恨み言が聞かれました。この手法に対して、学生がすでに持っている知識やイメージや感覚を前提として出発し、それを認識へと高めていくという授業のつくりになっていると分析してくれた方もいらっしゃいました。

また、自分の授業でも発問は取り入れているが、個人作業の時間をあんなに取っていないかも、と指摘してくれた方もいらっしゃいました。それに関連して、書く時間を指定していなかったがそれはなぜか？ という質問もいただきました。彼らがどれくらい書く時間が必要か読み切れなかったし、ひとりひとり書くスピードが違うということもあってあらかじめ時間を指定しなかったのですが、授業マネジメントという意味でも、書く側の心づもりという点でも時間指定は必要かもしれないと気づかせていただきました。

内職している学生がいないのは何か工夫をしているのか？ という質問もいただきました。これに関しては、最初に問いを提示しミニットペーパーに書かせたことによって、授業への集中度を高めることができたのかなとも思いますが、それ以外にも板書をさせるなど学生に作業させる時間をところどころ取り入れるのは、講義に集中させるのにはいい方法なのかもしれません。学生の様子を観察していた方からは、それまで寝ていた学生が、板書が始まったところで急に起きてノートに書き始めていたということも教えていただきました。

全体的には、何も授業していないうちのいきなりの問いかけから始まって、盛り上がり部分（「和田移植」のところ）が明確に設定されているところなど、授業の組み立てに対して皆さまから高い評価をいただくことができました。個人作業時間をどうコントロールしたらいいのかといった今後に向けての課題も明らかになりましたし、私としてはたいへん貴重な時間となりました。お忙しいなか授業を参観して下さったり検討会に参加して下さった先生方に感謝申し上げます。

日 時 平成25年10月29日(火) 4時限
14:40~16:10 授業公開 (M22 教室)
検討会なし
授業科目 「化学工学概論」
授業者 佐藤理夫 先生 (共生システム理工学類)



授業者からの報告

佐藤 理夫

製造現場を楽しむために

総合教育センターに在籍していた渡部芳栄先生とは、ひげ友達であった。ある日、生協食堂で「佐藤先生の授業が面白ってアンケートにあったんだけど、公開してくれませんか？」と声をかけられた。「声がでかいだけですよ！」と笑って、二つ返事で引き受けてしまった。高校時代から声楽と合唱を趣味とする私は、学生アンケートに「声が大きくて良い」と頻繁に書かれている。

ビーカーの大きさで行う「化学実験」を、コンビナートのサイズで行う「製造」に拡大するために必要な学問が『化学工学』である。作業服とヘルメットで工場内を歩き回ることが似合う分野である。反応や物性の詳細はそれぞれの専門分野に任せ、安全で経済的な製造を考えることが中心である。化学産業に携わるようになる学生は多くはないのであるが、実際の製造現場を理解して次世代の産業を考えてもらうため、産業システム工学専攻の基礎科目と位置付けている。工場と自然環境の関わりや環境保全技術を知るためであろうか、環境システムマネジメント専攻所属の受講生も多い。

初回の授業で「理工学類研究実験棟の屋上のタンクに水を入れるためのポンプはどこに置くか？」という課題を考える。屋上から吸い上げようとしても、10mまでしか上がらない。遠い昔に理科で習った「トリチェリの水銀柱の実験」の水銀を水に置き換えて考えると、納得である。水を移送するという単純な操作でも、なかなか難しいことを実感させている。

二回目は、定量的に考えて記述する大切さを語っている。「キッチンに大きなゴキブリが出ました…。しっかりイメージしてね！」身振りも含め、だんだんバラエティー番組のようになってくる。「可愛い子猫がいました。小さい猫です。」オチはなんだろうかと先読みをする学生達。「さて、大きいゴキブリと小さい猫のどちらが大きいでしょうか？はい！君。」指名された学生は「小さい猫が大きいです。」と苦笑い。このようなトークで、大きい／小

さい・多い／少ないといった用語が如何に曖昧かを伝えて、数字に単位を付記して議論することの大切さを教えている。単位につくマイクロ・ミリ・キロ・メガといった接頭語について丁寧に説明し、「数字が倍／半分違ってても許すから、桁を間違えるな！」と強調。「バイトの学生が 50 円玉と 100 円玉を間違えても注意して許すが、10 円玉と 1 万円札を間違えたらクビにする！」そんなバカな間違えはしないと笑って聞いている学生も、レポートでは平気で 3 ケタ間違える。

三回目以降は、少しずつ製造現場に近づいていく。複雑な工場も「単一の機能を持つユニット（単位操作）の組み合わせとして把握できる」という概念を紹介し、「安定時には、すべてのユニットにおいて、入ってくる物質と出ていく物質はバランスしている（物質収支）」という基本を繰り返し教えている。収支のバランスが大切なのは、家計や体重と一緒にある。バランスが崩れた時が、破産・肥満そして事故である。化学工場において反応器はごく一部であり、分離することに多くの設備を要している。そのため蒸留や吸着といった分離技術の解説に多くの時間を割いている。コストや安全についても、時折触れている。授業公開の日は、単位操作について解説する日であった。まず、湯沸かし器を例にとり、「ガスを燃やす」・「水を温める」のユニットに分割できることを説明した。火力発電所を構成するユニットを黒板に書き出し、どのように接続していけば発電するのかを学生達に考えさせた。とんでもない発電所が完成することがある。これを「化学工学福笑い」と称している。次に高校の化学で習った「ハーバー・ボッシュ法によるアンモニアの合成」について、原料供給・圧縮・冷却・気液分離・熱交換・反応・パーズのユニットの組み合わせで連続的にアンモニアができることを説明した。

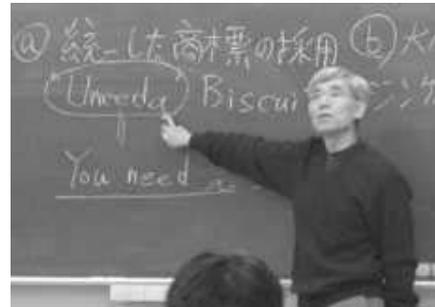
現在の製品はブラックボックス化されていて、その構造や作り方を意識することがない。製造現場を見学する機会も少なくなり、工場と学生との距離は近くない。そのため、湯沸



かし器・発電所・ウイスキー作り・脱臭剤といった身近にイメージできるようなものを導入事例として取り上げるようにしている。毎回、ほぼ全員の学生をテンポよく指名し、緊張感を保っている。「ちょっと考えてみよう！」と時間を取った時は、学生間での意見交換を促しながら教室内をグルグル歩いて議論の輪に乱入している。製造現場を理解する手法をほんの一端でも会得すれば、あとは各自の興味で深まっていくと考える。受講者が

現場を楽しめる社会人として卒業することを願いながら、ネタ探しと発声練習の毎日である。

日 時 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 2 時限
 10:20~11:50 授業公開 (S36 教室)
 11:50~12:20 検討会 (S36 教室)
 授業科目 「経営史」
 授業者 富澤克美 先生 (経済経営学類)



授業者からの報告

富澤 克美

I 授業計画

授業計画は以下の通り：

1. 経営史学とはどのような学問か(細目は省略)
2. アメリカ型大企業の誕生
 - 2-1 互換性部品制度の発展とアメリカ的大量生産体制
 - 2-2 経営基盤の地理的拡大と垂直統合企業(集権的職能部制組織)の成立
 - 2-3 独占の形成と経営の合理化
 - 2-4 経営多角化戦略と分権的事業部制の成立
3. 近代的経営管理思想の発展と専門的経営者の出現(細目は省略)
4. 大企業体制の限界と新しい産業システム(細目は省略)

II 当日の授業内容

授業計画に即して今回の授業の位置づけをすれば、2. アメリカ型大企業の誕生の単位における2-3の部分の後半にあたる。すなわち、アメリカ型大企業として最初に登場した集権的(複数)職能部制組織は、何らかの革新をもとにして誕生するルート(2-2)と、競争回避のために行う独占政策から生まれるルート(2-3)の二つがある。その第二のルートの物語の後半部分、すなわちどのようにして独占の限界を知り組織統合・経営合理化を断行して統合化された集権的職能部制組織になったのかを説明することが今回のテーマである。

まず前回のまとめを「枕」として振った。独占の形成から集権的職能部制組織への発展は二つの段階に分けられることを想起させ、その後第一の段階であるプールの結成から持株会社への展開を、US スティール社を例に取って説明したことを簡単に要約した。

それを踏まえて、第二の段階である独占の限界の認識から組織統合・経営合理化に至る物語をナビスコ社とデュポン社を例にとって説明した。

まずナビスコ社を取り上げ、それが持株会社として誕生したことを紹介し、第二の段階

の説明に入った。同社資料「1901 年度営業報告書」を取り上げ、学生にナビスコ社の経営陣が認識した独占の限界とはなんであったのかを理解させるように仕向けた。独占の限界とは、競争を制御もしくは統制するためにはあくまでも価格競争を戦い抜くか、もしくは競争企業を買収するという方法に訴えることになるが、そのどちらの方法を選んだとしても結局「財政的困難」に陥ってしまうということであった。独占の限界を悟った経営陣は、独占政策にかえて「会社それ自体の内部に成功を求める方針」を採用する。こうしてナビスコ社は組織統合と経営の合理化を断行し、統合化された集権的職能部制組織をもつ事業会社に生まれ変わる。さらにマーケティング政策に触れ、統一した商標"Unceda" Bisuit の採用、大がかりな広告の利用を説明する中で、マーケティングの専門職化と広告の発展についても言及した。

しかし組織統合と経営合理化がなぜ成功したのか、という新たな疑問が沸いてくる筈だと学生を誘い、その疑問への答えを見つけるためにデュポン社の事例に目を転じようと述べて話を転換した。まずデュポン社の簡単な社史を説明し、その後競争制限政策を棄ててなぜ組織統合・経営合理化に転換したのか、そのことを明らかにするべく、再び資料を学生に読んでもらった。そして、「製造の本質は安定的かつ十分な設備稼働、つまり完全操業」を如何にして維持するかに最大の関心を持つ必要があるという新しい考え方がデュポン社の経営陣の中に芽生えていたことを理解させた。それを踏まえてデュポン社経営陣が採用した政策が「市場の分断 segmentation」であったことを紹介した。組織統合・経営合理化はその市場の分断を実現するために必要不可欠であったのである。さらにそれに関連して管理のための会計技法の革新にも触れ、管理の専門職化についても言及した。

最後に本日の内容を全体として要約して授業を終了した。

III 検討会・学生アンケート

参加学生が 12 人と少なかったが、アンケートでは熱意、聞き取りやすい話だったこと、そして授業内容が理解できた点で高い評価を受けた。しかし板書などの読みやすさ、および学生の学びを助ける工夫については相対的に低い評価であった。学生の授業の学びを助ける工夫の評価は、検討会における資料の作り方に関する議論にも繋がる内容を含んでいるように思う。つまり、学生には道筋をすべて立てた資料のほうが受け入れられやすいのかもしれないと考えられるからだ。しかし、わたしとしてはできる限り資料それ自体を示し、そこから何が読み取れるのかを授業で明らかにする方法のほうが理解度を高めるとの経験則があるので、この方法を変えるつもりはない。その意味では学生の評価が低いことは仕方がないと考えている。

検討会では暖かい感想を多く頂いた。とりわけ「経営者の専門職化」に関連して、わたしの著書を読んでみたいと書いてくださったコメントが最も嬉しかった。

日時 平成26年1月8日(水) 1時限

8:40~10:10 授業公開(基礎物理学実験室)

10:10~10:40 検討会(基礎物理学実験室)

授業科目 「生活環境論」

授業者 川崎興太 先生(共生システム理工学類)



授業者からの報告

川崎 興太

ワークショップ

【教育】

いわゆる教育の力というもの信じていない。日本人は、6年間にわたって授業を受けても、英語を話すことすらできない。誰でも知っていることである。にもかかわらず、教育が肯定されているのは、普通そう思われているところではないところで、その力が働いているということだろう。学生時代に、フーコー、ブルデュー、イリイチ、アップル、バーンステイン、アリエスなどの著作から、多くのことを学んだことを今さらながら思い出す。

そういう私は、講義では、都市計画やまちづくりに関する知識よりも、それらの楽しさや苦しさを伝えられれば、それで十分だと思っている。講義での諸経験が契機となって、自分で都市計画・まちづくりについて学ぶようになる学生が1人でも2人でも現れれば、それでよいと思っている。私自身、都市計画・まちづくりに関する知識は、すべて社会人になってからの独学によるものである。

授業公開の対象となった理由は、学生の評価が高いからと聞いた。私にとって、学生の評価はいつでもよいが、その理由の一つはこうした教育に対する距離感にあると想像する。

【生活環境論】

今回、授業公開の依頼を受けたのは、4セメから受講できる「生活環境論」である。この講義は、大きく2部構成で組み立てられている。

第1部では、私が土地利用、交通、住宅・住環境、中心市街地、水・緑・環境・景観・観光、防災・防犯などをテーマとして、都市計画・まちづくりの楽しさや苦しさを語る。学生が日常生活の中で理解を深めることができるよう、福島県や福島市などの事例を適宜紹介しながら進めている。

第2部では、学生が第1部で学んだことを活かしつつ、実際の都市や農山漁村を対象として、ワークショップ形式で生活環境に関する調査・議論・発表を行う。都市計画・まちづくりのプランナーになる場合、1人ですべてを行うことは難しく、グループワークが必要になるので、その予備練習という意味でも、グループ形式で行うことにしている。

授業公開の日は、このグループ・ワークショップの初日であった。

【ワークショップの形式と内容】

今年度のワークショップの形式と内容は、以下の通りである。

ワークショップは、全4回。前半2回では、グループごとにディスカッションを行い、成果の発表に向けて準備作業を行う。後半2回では、それぞれのグループが成果を発表し合う。

グループは、学年、性別、出欠状況などを踏まえつつ、8つに編成。受講生は68人であるので、1グループあたり8～9人。

課題は、福島市の中心市街地、蓬莱団地、土湯温泉の中から、いずれか1地区を選び、A0サイズの模造紙を2枚以上つかって、地区環境の現況と地区環境の維持・改善に向けた提案をまとめる、というものである。

【当日の様子】

冒頭に、ワークショップをやったことがある人はいるかと聞くと、過去に私の講義を受けた3年生や4年生の数人以外、逆に言えば、受講者の大部分を占める2年生でやったことがある者はほとんどいない。

私からワークショップの形式と内容を説明した後、早速、グループに分かれてもらう。毎週、同じ教室にいても、互いに話し合ったことはほとんどないので、まずは自己紹介。その後、対象とする地区を選定してもらう。

毎年そうであるが、最初は緊張したり、恥ずかしがったりしているが、そのうち、どこかのグループから笑い声が聞こえてくる。すると、それが他のグループにも連鎖する。連鎖しないところには、私が入って“テコ”を入れる。グループワークが苦手そうな受講者にも“テコ”を入れる。終わったころには、だいたいみんな満足感であふれている。

【学生の感想と私の感想】

授業公開の日に、教務課が学生に対してアンケート調査を実施した。翌日、その集計の結果が私のところに送られてきた(表1)。よい経験をしたという学生が多いようだが、私からすると、毎年のことながら、準備が大変であったというのが感想である。



当日の様子

表1 授業公開の当日に実施されたアンケート調査の結果の一部(「今日の授業に参加して感じたことを自由に書いてください」の全回答)

大学の授業がただ講義を聞くだけが多いので、自分から意見を言ってみようと思った。
ワークショップということでグループをつくって話し合ったが、先生のお陰もあり、意見がすらすら出て楽しく授業をすすめられた。
とてもおもしろかったです。グループで話をやり取りしながら授業を行うことは。
今回のようなワークショップは初めて体験したのですが、様々な交流を通して、様々な意見が聞けて新鮮でした。
積極的に参加している人が多くて良い雰囲気だった。
ワークショップはなかなかやる機会がなく、不慣れで効率よく出来なかった。
福島市街地についてさまざまな意見を聞くことができたので良かった。なかなか具体的な意見がでず、まとまりに欠けるものであったが、方向性は正しいと思った。次回以降も深めた話をしたいと思った。
自由に話せる雰囲気があり、和やかな感じで班活動ができた。
ワークショップという授業形態がめずらしく楽しかった。
楽しい。
あまりグループで活動することは授業内でないので新鮮な気持ちでできた。
いろいろな学類・学年の人の意見が聞けて楽しかったです。
今まで話したことがなかった人たちと意見交換ができ良かった。
班の皆が積極的に意見を出し合っていて、とても有意義な話し合いができた。
他の学類生と会話する機会ができ、自分の考えを深めることができた。
ワークショップという検討会に初めて参加したが、本当に良かったと思います。
他の人と交流できる点がよかったです。
ワークショップとか他の授業と違っていておもしろいです。
川崎研行きたいです。
理工棟に縁がないのでまず来れるかどうか不安でした。
話し合いによって、自分の考えがまとまることもあるのだと感じた。
ワークショップによって、様々な人と意見を交換するのはとても楽しかったです。
ワークショップは初めての経験ですが、初めて会う方々と討論できて楽しかったです。
ワークショップで班の人たちと意見を交換できてよかったです。
普段話さない人と、意見をかわせておもしろかった。
ワークショップはいろいろな人の意見が聞けて、工夫して作成できるため楽しい。
いろいろな人の意見が聞けてとても新鮮な授業だった。こういった経験はとても大切だと思うのでたくさんやっていきたい。
ワークショップ等はあまりやったことがないので楽しく感じられた。先生の説明や、アドバイスが分かりやすく良かった。

日時 平成26年1月16日(木)3時限
13:00~14:30 授業公開(M24教室)
検討会なし

授業科目 「法律討論会」
(法学専攻入門科目クラス合同)

法学専攻入門科目担当者

金井光生 富田 哲 鈴木めぐみ

出題委員 中里真先生(民法)

審査委員 中里真先生、富田哲先生(民法)、阪本尚文先生(憲法)



授業担当者からの報告

鈴木 めぐみ

第13回法律討論会報告

今年で13回目をむかえる法律討論会は、行政政策学類で法学を専攻するすべての2年生が、専攻入門科目の授業において取り組むものである。課題に対する一定時間内の立論、それに対する質疑応答という形式をとり、法学教育、ひろくは高等教育における実践として、おそらく中世以来の伝統を持つものである。

本討論会の準備までの大まかな流れとしては、まず、夏休み前の最後の授業で課題が発表され、夏休みの宿題として、それについてのレポートを作成する。後期に入り、3ヶ月間の授業をその準備にあてるが、授業時間だけではとても足りないので、学生は時間外にリサーチをし、たびたび集まり議論をし、立論原稿を作成し、本番を迎えるのである。

本年は、民法分野から、中里真先生が出題した。ある夫婦が、ある国の国営航空会社が企画管理し、日本の旅行代理店が取り扱った新婚旅行で海外に出かけ、旅行先で様々なトラブルにみまわれたが、それに関し誰に対してどのような主張を法律的になし得るかというものであった。

前・後期と、民法の授業がそれぞれあるが、法律の実定法の勉強は2年から始まる。まず、そこで習った基本をどこまで理解し、身につけているかが課題を考える中であらわになる。また、問題は、民法のみならず、旅行業法などの特別法も参照し、さらに業界で実際にどうなっているか、判例、学説はどうなっているか、なども調べていかなければならない。講義とは全く勝手が違う。

担当教員の間で、学生の自主性に任せるという合意がある。若干の違いはあるかもしれないが、授業の場でも課外でも、教員は言いたいこともじっと我慢し「見守る」のみである。私のクラスでは、今年は、班別で一回立論をつくって発表し、その蓄積をもとに全体で立論をつくるという大枠を決めたが、具体的にどのようにそれを進めて行くかは学生が試行錯誤していくことになる。例えば、班の中でも集まったり作業をしたりを全員で行うためにはかなりの調整がいる。全員集まるゼミの時間も、議論をする場合司会をたてるのか、なかなか議論が出てこない場合どうするのかなど、そのたびごとに話し合っていて

いくことになるのである。学生の感想を聞いてみると、大変だというのが実感としてあがってくる。

今年度は、時間の確保のため、1月16日（木）の「見なし土曜日」を討論会実施の日とし、その3ヶ月前10月17日（木）を授業での一斉開始日とした。立論原稿(3000字以内・脚注別)の締め切りは12月19日（木）12時。当日に各クラスの立論が配布され、質問の準備が行われ、質問票（対1クラス3問）を討論会当日までに準備する。（なお、この質問票は審査員のみが見る。）

1月16日（木）13:00からM-24にて討論会が実施された。審査委員は出題者で審査委員長の中里真先生（民法）、富田哲先生（民法）、阪本尚文先生（憲法）である。今年度もFDのための公開授業として登録し、今年の特徴としては、15名ちかくの学生、教職員の見学者があった。

討論の基本的ルールとしては：

- 1 各クラスの立論順は当日くじによって決定する。
- 2 各クラスの登壇者は、立論者1名、補助者2名。持ち込めるものは、問題文、立論原稿、六法のみ。
- 3 立論の時間は10分。1分までの超過であれば立論を認め、それを越えると直ちに打ち切る。時間超過の場合合計15点の減点。
- 4 立論を行ったクラスに対し、他のクラスが5分づつ質問する。質問には、登壇者の3人のうち誰が応答しても良い。
- 5 採点は、立論50点・応答50点の100点とする。なお、立論点は、原稿35点・発表15点とする。

当日のくじの結果、順番はA（金井ゼミ）、C（鈴木ゼミ）、B（富田ゼミ）の順となった。質疑応答は、緊張する中、当意即妙にかつ一貫した論を展開するという（言うは易しく行うは難しの）ことが要求され、実際にうまく答えられた場面も残念な場面も当然出てくる。それでも、今回、論がかみ合っていた印象が全体としてある。

最終結果は、総合第1位富田ゼミ、2位鈴木ゼミ、3位金井ゼミであった。学生は喜びと悔しさを素直にまた複雑に示していた。

討論会の全記録は、行政政策学類学生論集『嶺風』に掲載されるので、そちらをご覧ください。



FDワークショップ 授業公開&検討会に向けて —授業者と参観者の皆さんへ—

福島大学教育企画委員会

福島大学では、今年度のFDワークショップとして「授業公開&検討会」を開催することになりました。実際の授業をお互いに見せ合って、具体的に授業をどう改善していったらいいかみんなまで話し合おうという試みです。福島大学全体の授業力量充実・向上のためにも、授業を公開された方が「皆さんに見ていただけてよかった」と思えるような、また参観者の方々も「今度は自分の授業を見てもらおう」と思えるような、そういう会になることが必要です。そのために以下の諸点に注意しながら、授業公開&検討会に参加してください。

- 1) 「授業公開&検討会」の目的は授業改善であって、だれかを批判したり、非難したりすることではありません。みんなが前向きになれるような明るいムードの会にしましょう。
- 2) 授業者は、ふだんどおりの授業を心がけてください。他の先生方が聴いているからといって、いつもより高度な内容に触れたりすることのないようにしてください。
- 3) 参観者は、その授業の「いいところ」を発見し、自分の授業にも生かすよう、心がけてください。
- 4) 参観者は、学生と一緒にあって授業の内容だけに集中しないでください。大事なことは、授業中の学生の反応であり、学生がどのように学んでいるかという事実です。授業の内容や授業者の行動の変化によって、学生は敏感に反応しているはずで、学生は、どのようなときに授業に集中し、どのようなときに集中力を失っているのでしょうか。
- 5) 参観者は、今日参観した授業が、15回分の1回であるということにも留意してください。
- 6) 教室の環境などにも留意して参観してください。
- 7) 検討会の場では、参観者が授業者を誉めることから始めましょう。授業者も過度に自己反省の弁を並べたてる必要はありません。大学教育に関しては誰も皆、素人みたいなものなので、お互いにアイディアを出しあって、それぞれが抱える問題を解決していきましょう。

(注意) 授業公開中の**教員同士の私語**は、学生の受講の妨げになりますので、くれぐれも慎んでください。



3.他大学 FD 研修等参加報告

他大学 F D 研修等参加報告

他大学における FD 研修等への参加

2013 年度、総合教育研究センター高等教育開発部門として参加した学外における FD 研修、各種セミナー、シンポジウム、学会等は以下の一覧に示す 20 件であった。これら研修等に参加して得られた知見の一部については、全学委員会の場を中心に共有してきた。今後は、より柔軟で広範囲を対象とした情報共有の在り方についても考えなければいけない。

なお、例年参加している東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会であるが、今年度は本学が開催校となった（2013 年 8 月 29～30 日）。他大学の事例だけではなく、本学からも教育実践の話題提供が行われた。企画のプロセスも含め、学内外の実践事例を共有する非常に良い機会であった。同研究会の詳細は『第 63 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 研究集録』としてまとめている（今後、Web 公開を予定している）。是非、ご参照いただきたい（丸山）。

・ 2013 年度に参加した学外 FD 研修、セミナー、シンポジウム、学会等一覧

1. 東北大学 教育関係共同利用拠点提供プログラム（2013 年 4 月 5 日）

テーマ：米国高等教育における学習成果の診断の実際－米国での IR 実務経験から－
会場：東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟 4 階 M401

2. 内田洋行 大学改革セミナー（2013 年 4 月 24 日）

テーマ：主体的な学びの実現に向けて「アクティブラーニングの現状と課題」
会場：株式会社内田洋行 新川本社（ユビキタス協創広場 CANVAS）

3. 河合塾・RIASEC セミナー2013（2013 年 5 月 11 日）

テーマ：動き始めたジェネリックスキルの育成と評価
－教育改革の現場から見える成果と課題－
会場：リクルート GINZA8 ビル 11F ホール

4. 日本高等教育学会 第 16 回大会（2013 年 5 月 25～26 日）

テーマ：公開シンポジウム「今、大学教育を考える－職業との関連から－」他
会場：広島大学（東広島キャンパス）教育学部 L 講義棟

5. **大学教育学会 第35回大会 (2013年6月1日～2日)**
テーマ：教育から学習への転換
会場：東北大学 川内北キャンパス 講義棟 C 棟およびマルチメディア教育研究棟
6. **New Education Expo 2013 (2013年6月7日)**
テーマ：基調講演「教育の情報化ビジョン実現に向けた文部科学省の施策」他
会場：東京ファッションタウンビル
7. **立教大学 大学教育開発・支援センター シンポジウム (2013年6月19日)**
テーマ：「読む」学生が育つ大学教育を求めて
ー若者の読書実態と授業実践を始点としてー
会場：立教大学 池袋キャンパス M202 (マキムホール2階)
8. **大学教育学会 ルーブリックに関する講演会 (2013年6月29日)**
テーマ：Liberal Education and America's Promise と VALUE Rubric の有効性
ーアメリカの高等教育における教養教育の展開とルーブリックを活用した評価ー
会場：兵庫県看護協会内 ハーモニーホール
9. **デジタル・ナレッジ 学校 IT 武装化支援セミナー (2013年7月5日)**
テーマ：貴校の魅力を最大限引き出す IT 活用法とは？
会場：デジタル・ナレッジ eラーニング・ラボ秋葉原 1F
10. **東北大学 教育関係共同利用拠点提供プログラム (2013年8月3日)**
テーマ1：大学教育論：教養と専門の二項対立を越えて
テーマ2：リーダーシップと意思決定
会場：東北大学川内北キャンパス講義棟 A 棟 A101
11. **大学入試センター 研究開発部 2013 シンポジウム (2013年8月8日)**
テーマ：入試研究から見た高大接続ー多様化する大学入試にせまるー
会場：NTT データ駒場研修センター
12. **大学改革フォーラム 2013 (2013年8月9日)**
テーマ：大学教育の未来を探るー大学改革支援プログラム (GP) の検証と展望ー
会場：明治大学 駿河台キャンパス

- 13. 東北地域大学教育推進連絡会議 (2013年9月9日)**
テーマ：アクティブラーニングとFDに関する話題提供・情報交換
会場：秋田大学 手形キャンパス・一般教育2号館 101教室
- 14. 愛媛大学 ファカルティ・ディベロッパー養成講座 in 京都 (2013年10月4～6日)**
テーマ：「授業アンケートの見直しと活用方法」他
会場：キャンパスプラザ京都
- 15. Q-Links Q-confetence2013 (2013年11月2日)**
テーマ：私たちは変われているのか？
会場：九州大学 伊都キャンパス
- 16. IDE 大学協会東北支部 平成25年度IDE大学セミナー (2013年11月18日)**
テーマ：現代を担う教養と教養教育を求めて
会場：仙台ガーデンパレス 2F 鳳凰
- 17. 大学教育学会 2013年度課題研究集会 (2013年11月30日～12月1日)**
テーマ：大学教育の質的転換の方向性を問う
会場：同志社大学 今出川キャンパス
- 18. 国立教育政策研究所 平成25年度教育改革国際シンポジウム (2013年12月10日)**
テーマ：TUNING-AHELO
ーコンピテンス枠組の共有と水準規定によるグローバル質保証ー
会場：文部科学省 3階講堂
- 19. 文部科学省 公募説明会・事業説明会 (2016年1月17日)**
テーマ：「大学教育再生加速プログラム」事業説明、他
会場：学術総合センター内 一橋大学一橋講堂
- 20. 島根大学 反転授業公開研究会 (2014年2月12日)**
テーマ：授業の常識をひっくりかえす！「反転授業」を考える
会場：松江テルサ (4階大会議室、中会議室・研修室)



4.FD・SD ジョイントセミナー

平成25年度FD・SD ジョイントセミナー報告

平成 25 年度 FD・SD ジョイントセミナー報告

総合教育研究センター高等教育開発部門 丸山和昭

今年度開催のセミナーについて

総合教育研究センター高等教育開発部門では、例年 FD・SD ジョイントセミナーを開催しております。今年度も教育企画委員会、教務課等と協力し、2 回の FD・SD ジョイントセミナーを開催しました。

セミナー内容と参加者数

テーマは、第 1 回を「遠隔教育の可能性」、第 2 回を「プロが教える「伝え方・聞き方」としました。詳細は後掲のチラシをご覧ください。

なお、当日の参加者数の詳細は以下の通りです。

	本学教員	本学職員	本学学生	他大学教員	他大学職員
第 1 回	9	14			
第 2 回	7	19	7	3	6

平成25年度 第1回福島大学FD・SDジョイントセミナー
<申込受付中>

テーマ：遠隔教育の可能性
日時：平成 25 年 7 月 3 日（水）15 時～
場所：総合教育研究センター棟 1 階「特別教室」
概要：近年の遠隔教育をめぐる動きを紹介し、新たな技術・製品（特にテレビ会議システム・オンラインミーティングシステム）の開発を行っている 3 社の企業から製品についてのデモを行って頂き、実際に参加者が製品に触れて体験する時間を設けています。
参加企業：シスコシステムズ合同会社
株式会社フィキューブ
パナソニックシステムネットワークス株式会社（50 音種）

問い合わせ先：福島大学総合教育研究センター事務局
電話：024-548-8110 FAX：024-548-6631
URL：http://www.educ.fukushima-u.ac.jp/rgc/
E-mail:kooku-s@edcf.fukushima-u.ac.jp
※先着 50 名まで、前日までに、事前申し込みが必要
（総合教育研究センター事務局まで）

平成25年度福島大学 第2回FD・SDジョイントセミナー

『プロが教える「伝え方・聞き方」』

日時：9月26日（木）15：00～17：00（予定）

場所：総合教育研究センター棟2階「特別教室」

講師：福島中央テレビアナウンサー 大野 智子氏

講師紹介：「ゴジてれ Chu!」に出演。今年の東北六魂祭ではパレード中継を担当。趣味はフットサルで、福島県サッカー協会の特任理事（初の女性理事）も務める。

概要：教育を含め、人間関係の形成で重要な「伝え方・聞き方」について専門家から学ぶ！

受講申込：第2回FD・SDジョイントセミナー申込は、下記のセンター事務室までメールに「所属・氏名等」を記載の上送信ください。



受講申込
受付中！

福島大学総合教育研究センター
高等教育開発部門、福島大学人事課
《申し込み & お問い合わせ先》
総合教育研究センター事務室（内線2942）
Eメール: kyoiku-s@adb.fukushima-u.ac.jp

平成25年度FD宿泊研修記録



平成 25 年度 F D 宿泊研修

2013 年度の F D 宿泊研修は、9 月 28・29 日に二本松市岳温泉『あづま館』で行われた。参加者は、教員 8 名、職員 8 名、学生 20 名の計 36 名であった。今年度の全体テーマは「大学で身に付ける（身に付けさせる）べき能力とは」とした。大学で学びたいこと、学ばせたいことについて、教員、職員、学生が、所属をこえて議論する、貴重な機会となった。参加していただいた方々に、改めて感謝申し上げたい。以下、合宿の開催要項、参加者一覧、配布資料、各班の報告の一部、参加者の目標設定とふり返りの内容について掲載する。

なお、合宿での配布資料や、各班の報告内容の詳細、アイデアについては、総合教育研究センター高等教育開発部門のホームページにて公開した。是非、ご覧いただきたい。また、全学委員会などでも成果を共有した。さらに今年度は、Q-Links（九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク）の Q-conference2013 において、福島大学の F D 合宿の内容や成果についてポスター発表を行った。同発表資料についても、本章末尾に掲載する（丸山）。

《本章掲載内容》

1. 2013 年度 F D 宿泊研修開催要項
2. 2013 年度 F D 宿泊研修参加者一覧
3. 配布資料（各種アンケート結果の共有）
4. 各班の報告（KJ 法の成果をまとめた模造紙の様子）
5. 参加者の目標設定とふり返りの内容
6. Q-conference2013 ポスターセッション配布資料
テーマ：大学で学びたいこと、学ばせたいこと
－ F D 合宿を通じた「調査」と「改善」の連動の試み－

1. 2013 年度 F D 宿泊研修開催要項

2013 年度 F D 宿泊研修開催要項

1. テーマ・日程等

全体テーマ：大学で身に付ける（身に付けさせる）べき能力とは

開催場所：二本松市岳温泉『あづま館』

開催日：9/28～9/29

〇1 日目：9/28（土）

10:15 経済経営学類棟ロータリー前集合 送迎バスにて 11:15 頃着

11:30 開会行事（以下進行役：総合教育研究センター 渡部芳栄）

開会の挨拶：教育担当副学長 飯島充男

研修の流れ、諸注意・事務連絡等

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～13:15 [第1セッション] 研修の狙い・グランドルール・目標設定

13:15～13:35 [第2セッション] 各種アンケート結果の共有

13:35～14:00 [第3セッション] グループワーク①

14:00～14:30 [第4セッション] グループワーク② (14:30～14:50 休憩)

14:50～18:00 [第5セッション] グループワーク③ (18:00～18:30 休憩)

18:30～ 夕食（挨拶：新井先生）

〇2 日目：9/29（日）

8:00 頃 朝食

9:00～10:30 [第6セッション] 報告会

10:30～10:50 [第7セッション] ふり返りと共有

10:50～ 閉会行事

閉会の挨拶：教育担当副学長 飯島充男

11:00 頃 帰学（大学着 12:00 頃予定）

2. 各セッションの概要

【第1セッション】研修の狙い・グランドルール・目標設定

研修の狙いとルールを確認した後、各自の目標を設定します。2日間での達成可能性を考慮しながら設定し、研修中は折に触れここで立てた目標を思い出すようにしましょう。

【第2セッション】各種アンケート結果の共有

第3セッションのグループワークの参考に資するため、全体テーマに関連して学生や教職員に対して実施されてきた各種アンケートの結果を共有します。

【第3セッション】【第4セッション】【第5セッション】グループワーク

グループワークでは“KJ法”を用いて、「大学で身に付ける（身に付けさせる）べき能力」とその能力獲得の課題等を明らかにするための構造化を目指します。2日目に予定される報告会の資料も、ここで作成します。

【第6セッション】報告会

報告時間は、1グループ質疑応答を含めて10分程度を予定しています。時間が非常に限られているため、分かりやすくポイントを報告することを心がけてください。

【第7セッション】ふり返りと共有

第1セッションで設定した自分の目標が達成できたか、ふり返りをします。ワークシートに10分で記入し、ふり返りが終わったら、グループ内で共有しましょう（1人2分程度）。なお、ワークシートの内容は何らかの形で公表されますのでご了承ください。

3. 持参・準備物等

- ・持参するもの：筆記用具、保険証、開催要項、その他宿泊に必要なもの。
- ・大学で準備するもの：各セッション分のワークシート、名札、ポストイット、サインペン、模造紙、マーカー、マグネットまたはテープ、ホワイトボード、パソコン、プロジェクター、プリンタ、コピー機、書画カメラ、スクリーン、コピー用紙、『学びのナビ』、『FD報告書』、時間管理ベル。

- ・配付資料：全体のレジユメ、各セッション分のワークシートなど。その他、各セッションで必要な資料。
- ・随所に休憩を入れていますので、自由にリフレッシュしてください。また、第5セッションでは、グループごとに適宜休憩を取ってください。

4. 諸注意

- ・**楽しむ**。そのためには、教職員と学生といった立場や年齢などの壁を取り払う。教職員は議論を仕切ったり引っ張ったりせず、学生が意見やアイデアを出せるような雰囲気作りをお願いします（もちろん、意見を言っていけない訳ではありません）。
- ・「まじめすぎ」は禁物です。一見突拍子もないことがいいアイデアにつながるかもしれません。「こんなこと言っても…」など無用！ぜひ壁を取り払って話をしましょう。
- ・意見が多かったものも、少数だけど面白いものも大事にしましょう。
- ・目の前にいる話し相手を言い負かすことが目的ではありません。お互いの話に耳を傾けましょう。
- ・時間管理や一定のルールを定めます。
- ・合宿の目的は幅広くアイデアを出すことですので、必ずしも解決策を出そうとは考えなくても構いません（もちろん、そういう話でも構いません）。
- ・教職員も含め、私服で来てください。

2. 2013 年度 F D 宿泊研修参加者一覧

	所属部局	氏名
教員 (8名)	副学長 (教育)	飯島 充男
	人間発達文化学類	新井 浩
	人間発達文化学類	加藤 奈保子
	人間発達文化学類	高橋 由貴
	人間発達文化学類	中田 文憲
	総合教育研究センター 高等部門長	渡部 芳栄
	総合教育研究センター 高等部門	丸山 和昭
	地域連携課 ACF事務局 研究員	高森 智嗣
学生 (20名)	人間発達文化学類4年	糠澤 摩美
	人間発達文化学類4年	稲見 尚
	行政政策学類1年	オウ シンキ
	行政政策学類1年	小森 千賀子
	行政政策学類1年	佐々木 麻衣
	経済学研究科1年	渡部 陽介
	経済学研究科1年	厚海 朗
	経済経営学類4年	荒川 桃子
	経済経営学類4年	大越 護
	経済経営学類3年	荒木 紗友理
	経済経営学類2年	八島 裕貴
	経済経営学類1年	佐藤 潤一
	現代教養コース4年	宍戸 美穂
	共生システム理工学類3年	関原 瑞穂
	共生システム理工学類3年	佐藤 玲菜
	共生システム理工学類2年	柏原 奈々
	共生システム理工学類2年	佐藤 ひかる
	共生システム理工学類2年	田所 花菜
	共生システム理工学類2年	柳沼 貴寛
	共生システム理工学類2年	高橋 香澄
職員 (8名)	教務課	高橋 清典
	教務課	木村 勝典
	教務課	岩下 悟士
	教務課	長谷川 歩
	施設課	鈴木 憲明
	施設課	横山 雄司
	施設課	渡部 一徳
	役員室	村上 寛和

2013年度 FD宿泊研修 「大学で身につけるべき能力とは」

各種アンケート結果の共有

【～考えるための参考までに～】

- ①福大生は、何を学んでいるのか
- ②福大生は、どんな生活を送っているか
- ③福大生は、どのように学んでいるのか

※主に次の四つのアンケート結果をもとに情報提供

- ・平成22年度「学生生活実態調査」
（全学生対象、回収率64%）
- ・平成22年度「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」
（H20・21年度卒業生対象、回収率18%）
- ・平成24年度「教育改善のための学生アンケート」
（前期後期計、回収率64%）
- ・平成24年度「学生による共通教育アンケート」
（2年次学生対象、回収率60%）

福大生の能力 ～何を学んでいるのか～

◎H24「学生による共通教育アンケート」より

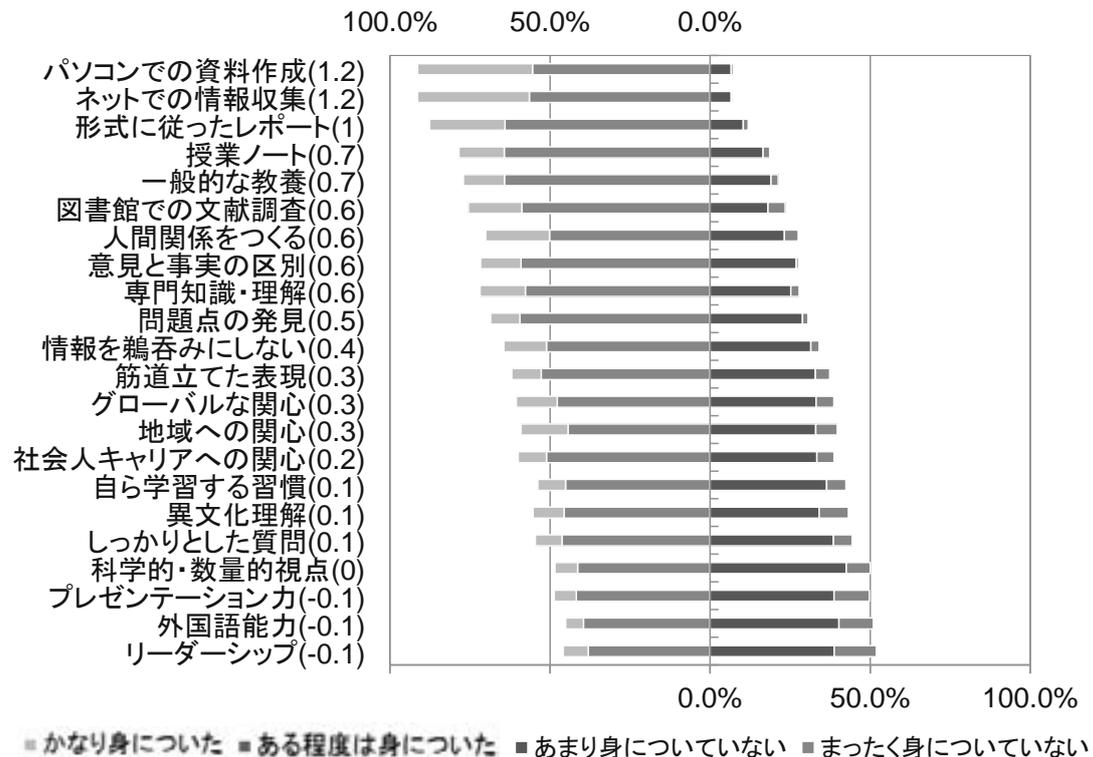
Q. 大学入学時と比べて、以下に挙げる「学習態度、力、知識等」は身につきましたか？

※22項目について5択で質問。次頁の図は、各項目の回答割合を示す。

※選択肢を点数化（「かなり身についた=2」「ある程度は身についた=1」「あまり身につけていない=-1」「まったく身につけていない=-2」「特に伸びていない=0」）したうえで、その平均値（項目名の括弧内の値）が高い順番に項目を並べ替えている。

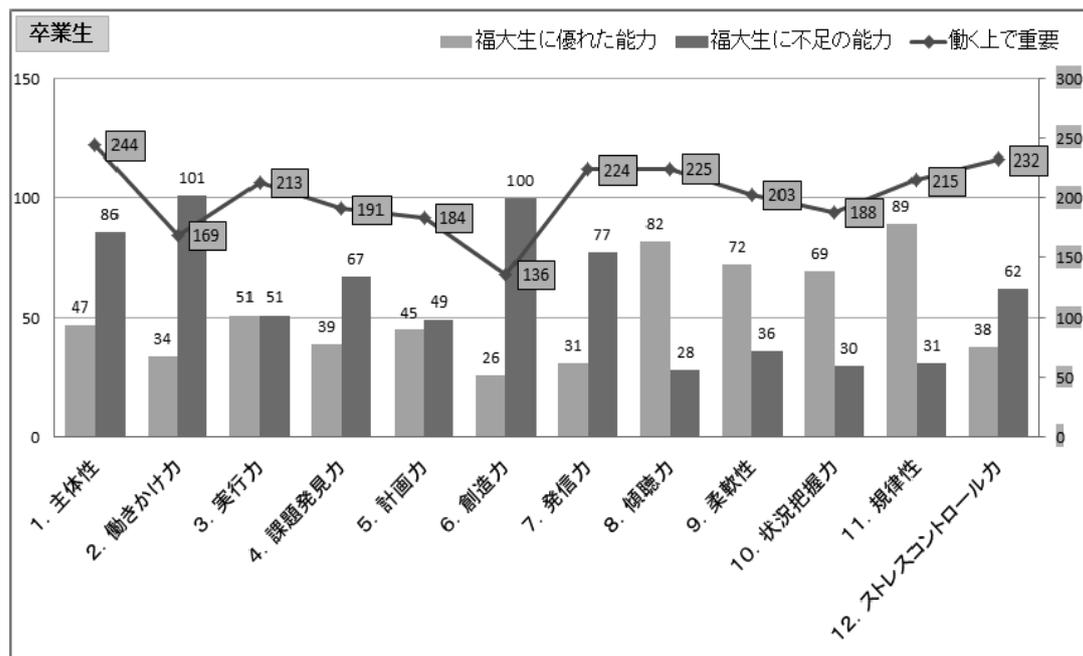
※なお、結果をわかりやすく示すために、図からは「特に伸びていない」（いずれの項目でも5%未満）の割合を除いている。

◎H24 共通教育アンケート: 大学で身についた能力

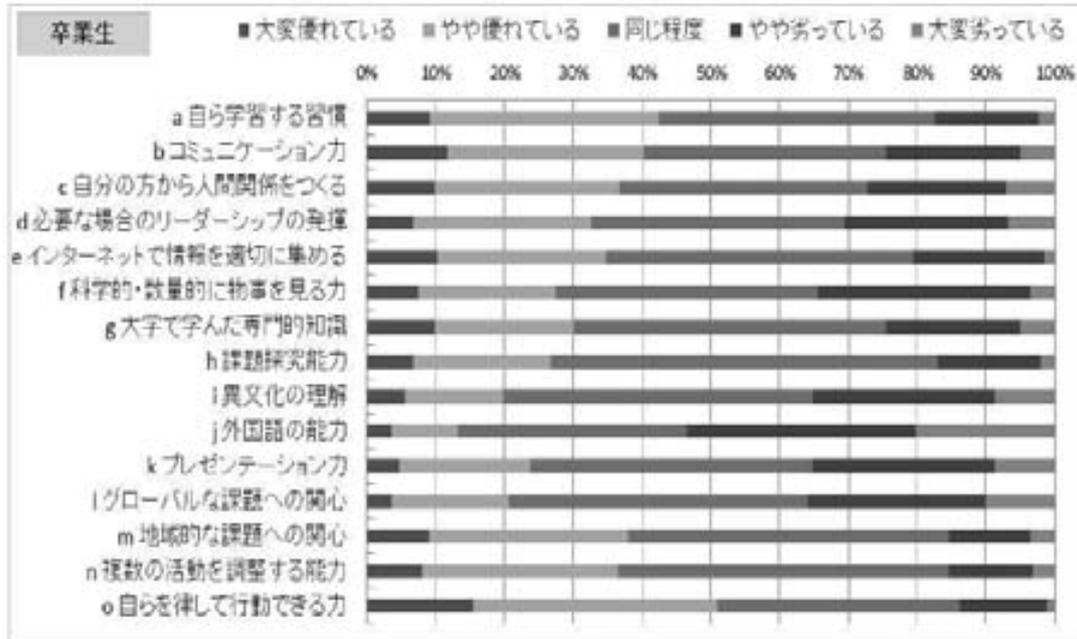


◎H22「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」より

Q. 福大生に優れたOR不足の「社会人基礎力」



◎H22「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」より
 Q. 自分自身の能力評価（同期の大卒と比較して）



福大生の生活

～どんな生活を送っているのか～

◎H22「学生生活実態調査」より

- ①毎日朝ごはんを食べる 47%
- ②毎日6時間以上の睡眠 66%
- ③お酒を嗜む 79%
- ④煙草を嗜む 11%
- ⑤アルバイトをしている 76%

◎H22「学生生活実態調査」より

- ⑥奨学金（日本学生支援機構）
を受けている 47%
- ⑦サークルに所属 68%
- ⑧進路に悩んでいる 20%
- ⑨体調に不安はない 87%
- ⑩学生生活に不満はない 88%

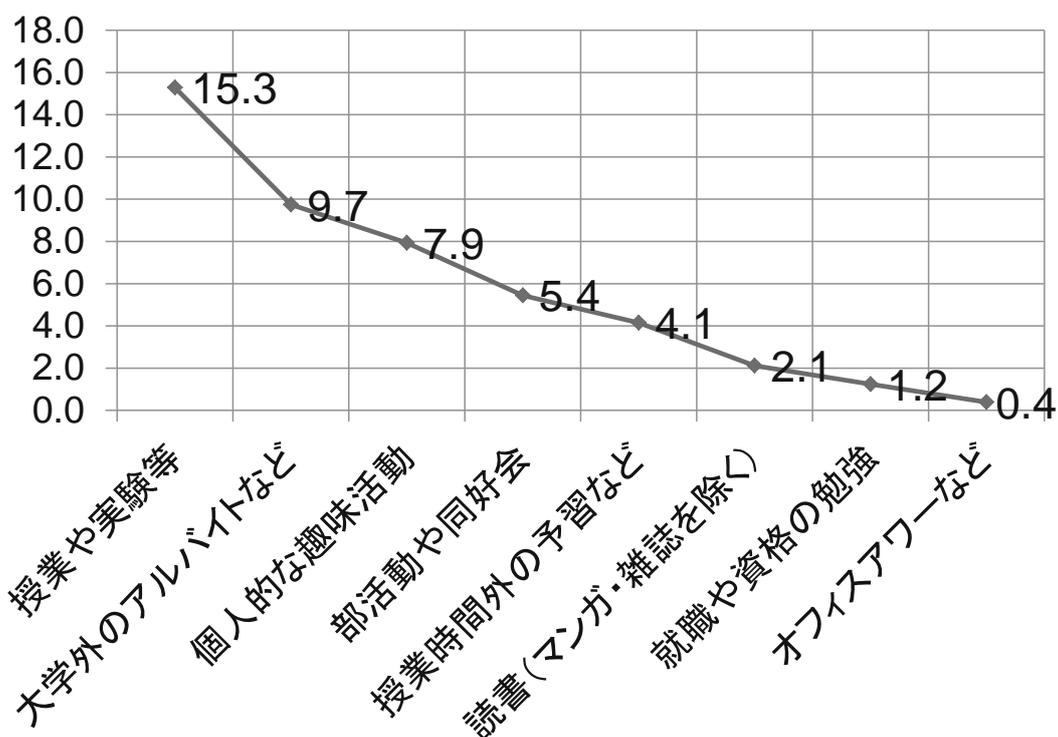
◎H24「学生による共通教育アンケート」より

Q. 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか？

※8項目について9択で質問。次頁の図は、各活動内容の週あたりの平均時間を示す。

※個々の学生の正確な活動時間を本調査から知ることができないため、ここでは「全然ない」との回答を0時間、「30分未満」を0.25時間、「30分-1時間」を0.75時間、「1-2時間」を1.5時間、「3-5時間」を4時間、「6-10時間」を8時間、「11-15時間」を13時間、「16-20時間」を18時間、「20時間」を20時間と換算して、各活動の平均時間を算出した。なお、各項目の順番は、平均時間が長い順に並べ替えている。

◎H24共通教育アンケート：1週間あたりの活動時間

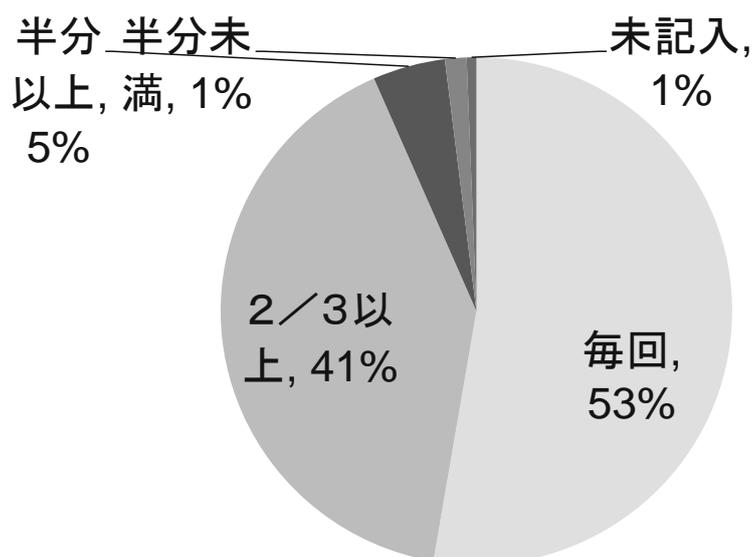


福大生の学び

～どのように学んでいるのか～

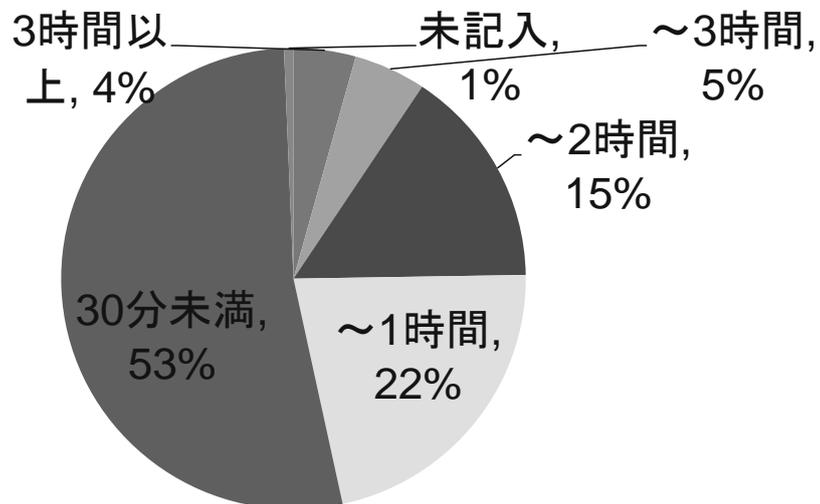
◎H24「教育改善のための学生アンケート」より

Q. この授業にどれくらい出席しましたか？



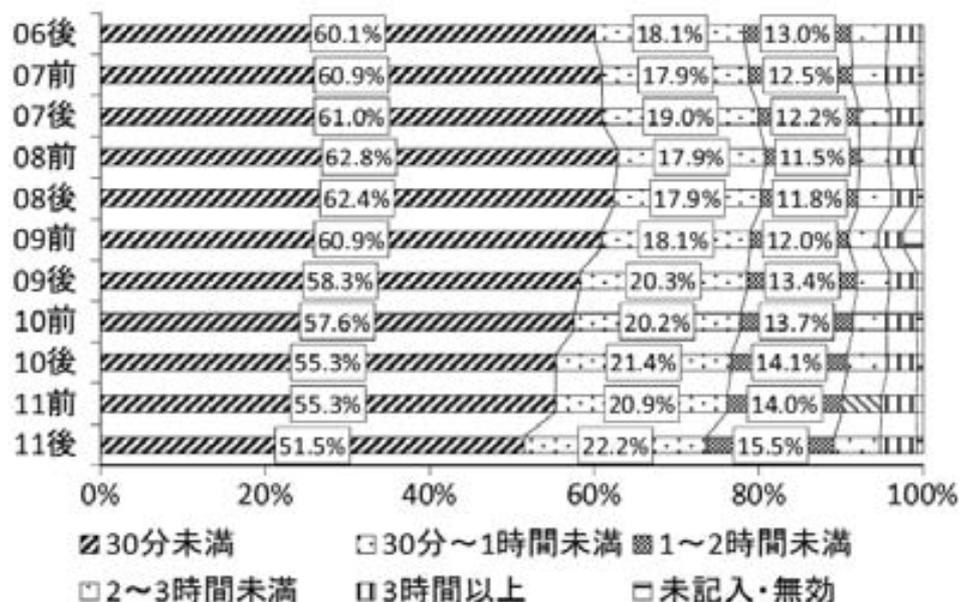
◎H24「教育改善のための学生アンケート」より

Q. 授業時間以外にこの授業に関して1回の講義あたり平均してどのくらい予習・復習,あるいは関連の学習をしましたか?



◆「教育改善のための学生アンケート」経年変化

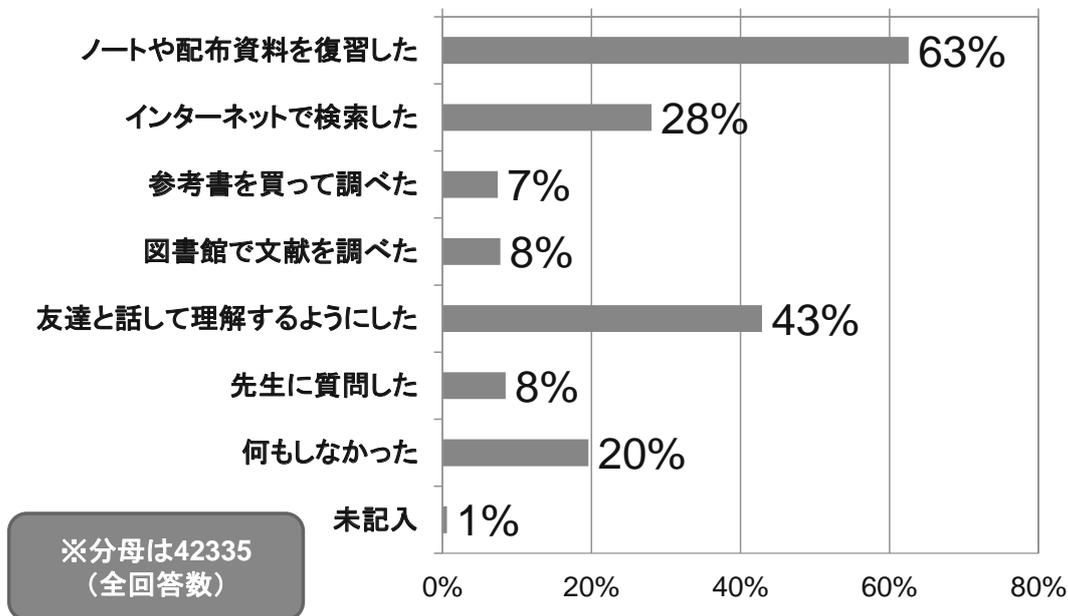
※授業外学修時間の変化(2006年~2011年)



※渡部芳栄, 2013「福島大学生の授業外学修時間の分析」『福島大学総合教育研究センター紀要』14

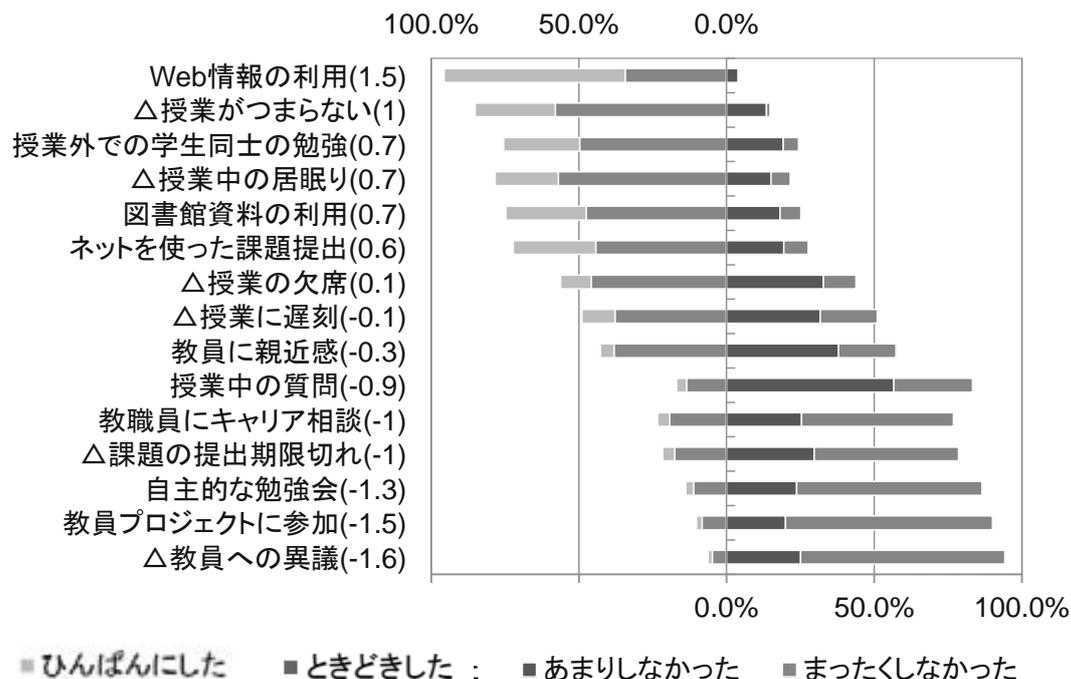
◎H24「教育改善のための学生アンケート」より

Q. あなたはこの授業をよく理解するためにどのような努力をしましたか(三つまで回答)?



◎H24「学生による共通教育アンケート」より

Q. 授業内外の学習で、次のような経験があったか?



参考. 平成25年度5月現在の学生現員

- ・現員：**4520**人 ⇒学類・学群**4203**人(**93%**)，
※旧学部**0**人(**0%**)，大学院**317**人(**7%**)
- ・性別：男性**59%**，女性**41%**
- ・学年：1年**22%**，2年**22%**，3年**23%**，4年**26%**，
※その他(旧学部，大学院等)**7%**
- ・所属：人間発達文化学類**26%**，行政政策学類**21%**
経済経営学類**22%**，現代教養コース**6%**
共生システム理工学類**17%**，
※その他(旧学部，大学院等)**7%**

※『福島大学概要2013』より

参考. 平成22年度 「学生生活実態調査」概要

- ・実施期間と対象：平成22年12月，全学生対象
- ・回答数：**2781**(回収率**64%***)
- ・性別：男性**52%**，女性**48%**
- ・入学年度：22年度**30%**，21年度**25%**，20年度**22%**，
19年度**21%**，その他**2%**(18年度以前、未記入)
- ・所属：人間発達文化学類**31%**，行政政策学類**18%**
経済経営学類**21%**，現代教養コース**4%**
共生システム理工学類**19%**，その他**7%**(旧学部、大学院生等)

*平成22年5月
の学生現員
4331名が分母

参考. 平成22年度

「福島大学の教育に関する卒業生アンケート」概要

- ・実施期間と対象：平成23年1月，
平成20・21年度卒業生対象
- ・回答数：**292**（回収率**18%**＊）
- ・性別：男性**47%**，女性**51%**
- ・入学年度：18年度**49%**，17年度**46%**，その他**4%**
- ・所属：人間発達文化学類**38%**，行政政策学類**27%**
経済経営学類**17%**，現代教養コース**1%**
共生システム理工学類**16%**

*調査票送付数
1592が分母

参考. 平成24年度

「教育改善のための学生アンケート」概要

- ・実施期間と対象：平成24年度の各学期末，
自己デザイン・共通・専門各領域科目の受講者対象
（※受講者数が1桁の科目を除く）
- ・回答数：**42335**（回収率**64%**＊）
⇒前期**23456**，後期**18879**の計
- ・学年（入学してからの年数）
：1年**42%**，2年**34%**，3年**19%**，4年**3%**，
5年以上**1%**，未記入・無効**1%**
- ・所属：人間発達文化学類**34%**，行政政策学類**17%**，
経済経営学類**23%**，現代教養コース**5%**
共生システム理工学類**20%**，
旧学部**0.2%**，未記入・無効**0.3%**

*前後期の
受講者数計
66707が分母

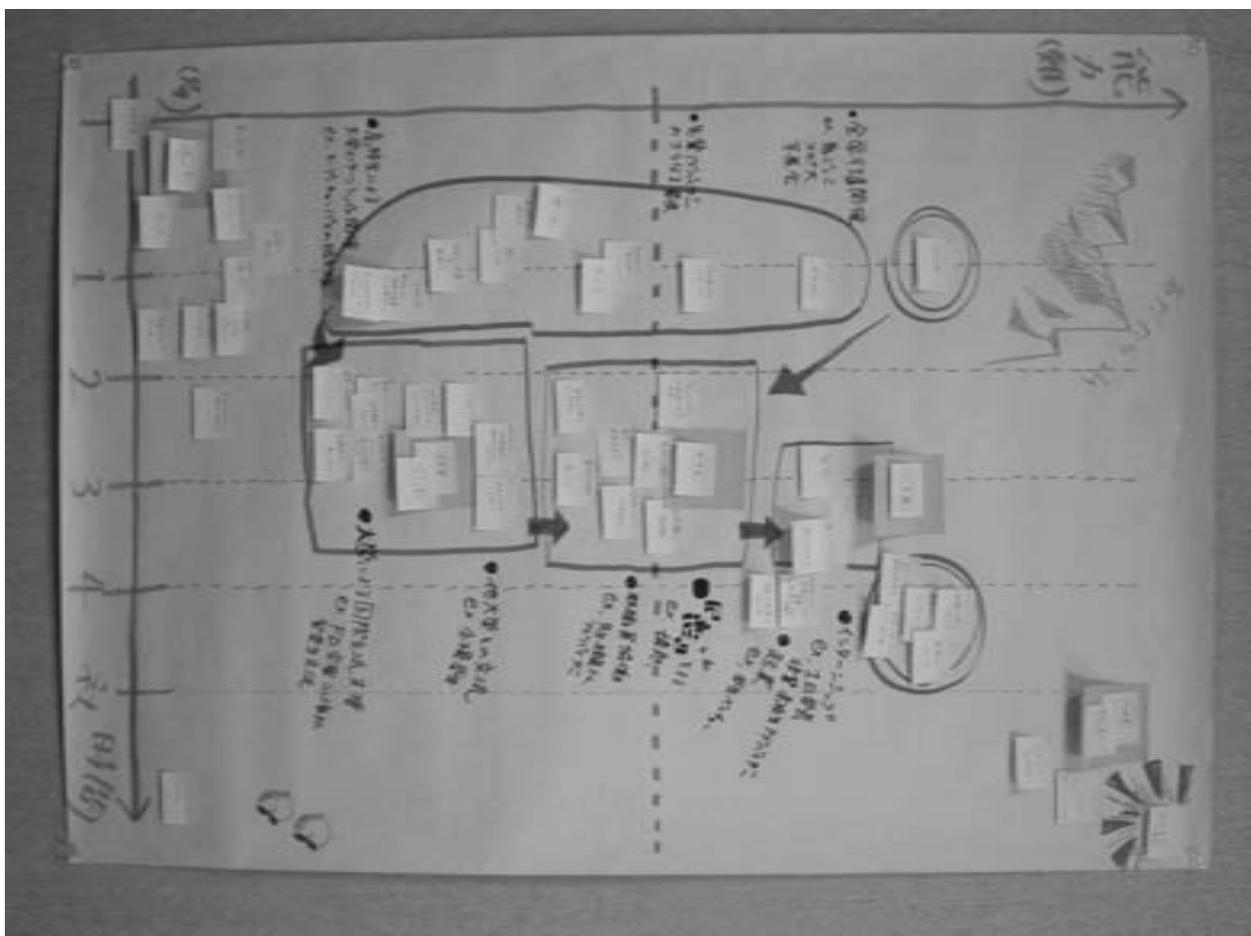
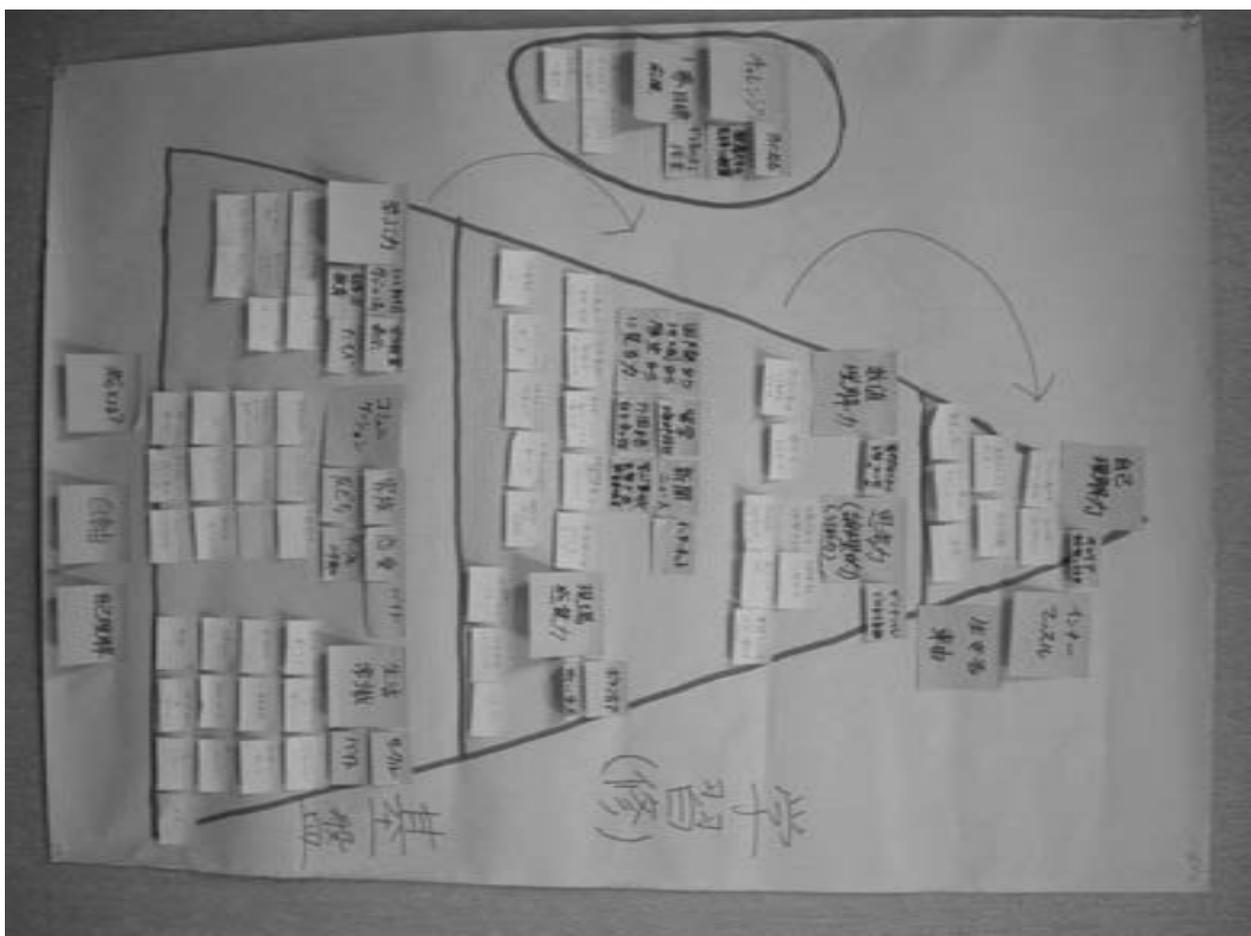
参考. 平成24年度 「学生による共通教育アンケート」概要

- ・実施期間と対象：平成24年1月,2年次学生対象
- ・回答数：**599**(回収率**60%***)

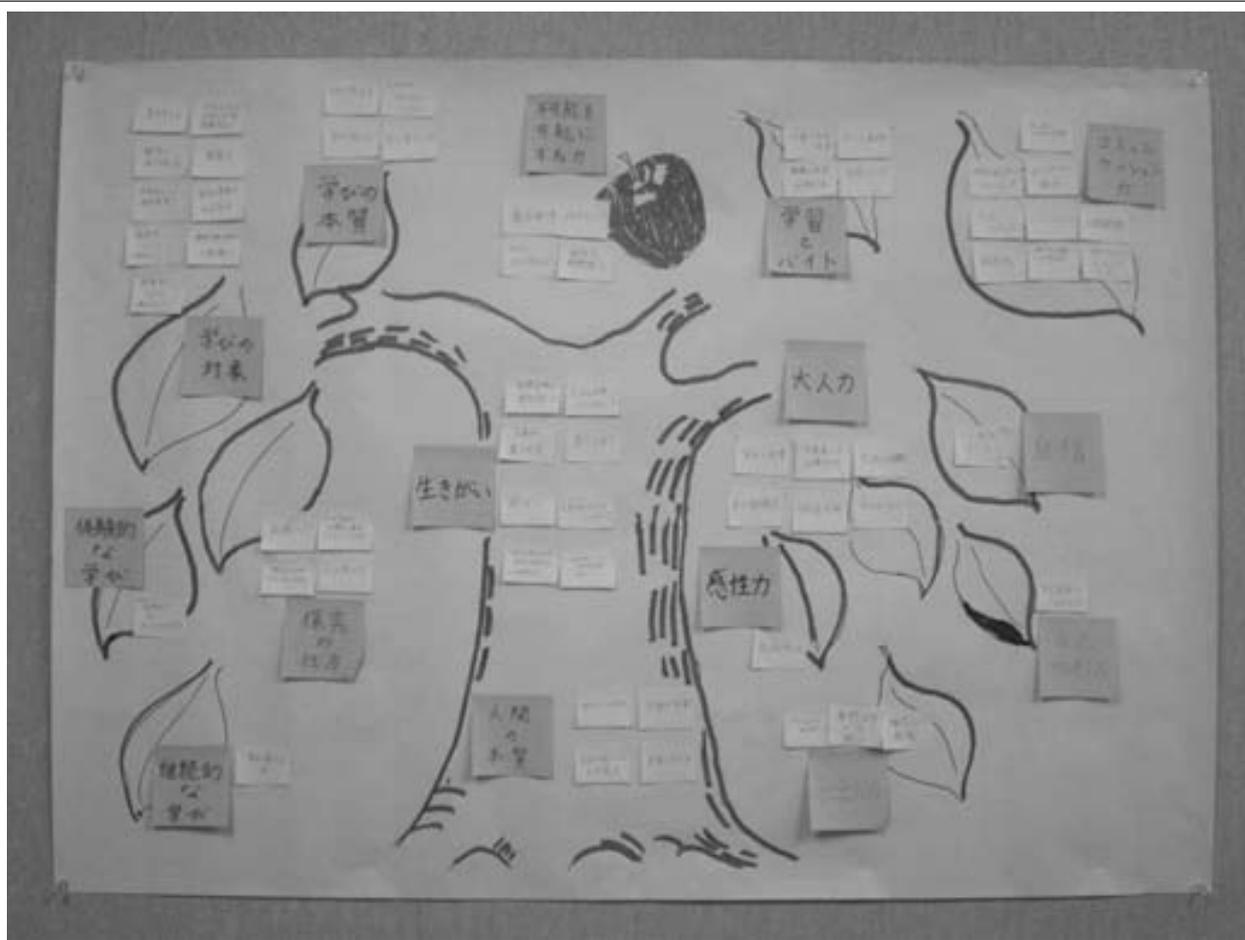
*2年次学生
1001名が分母

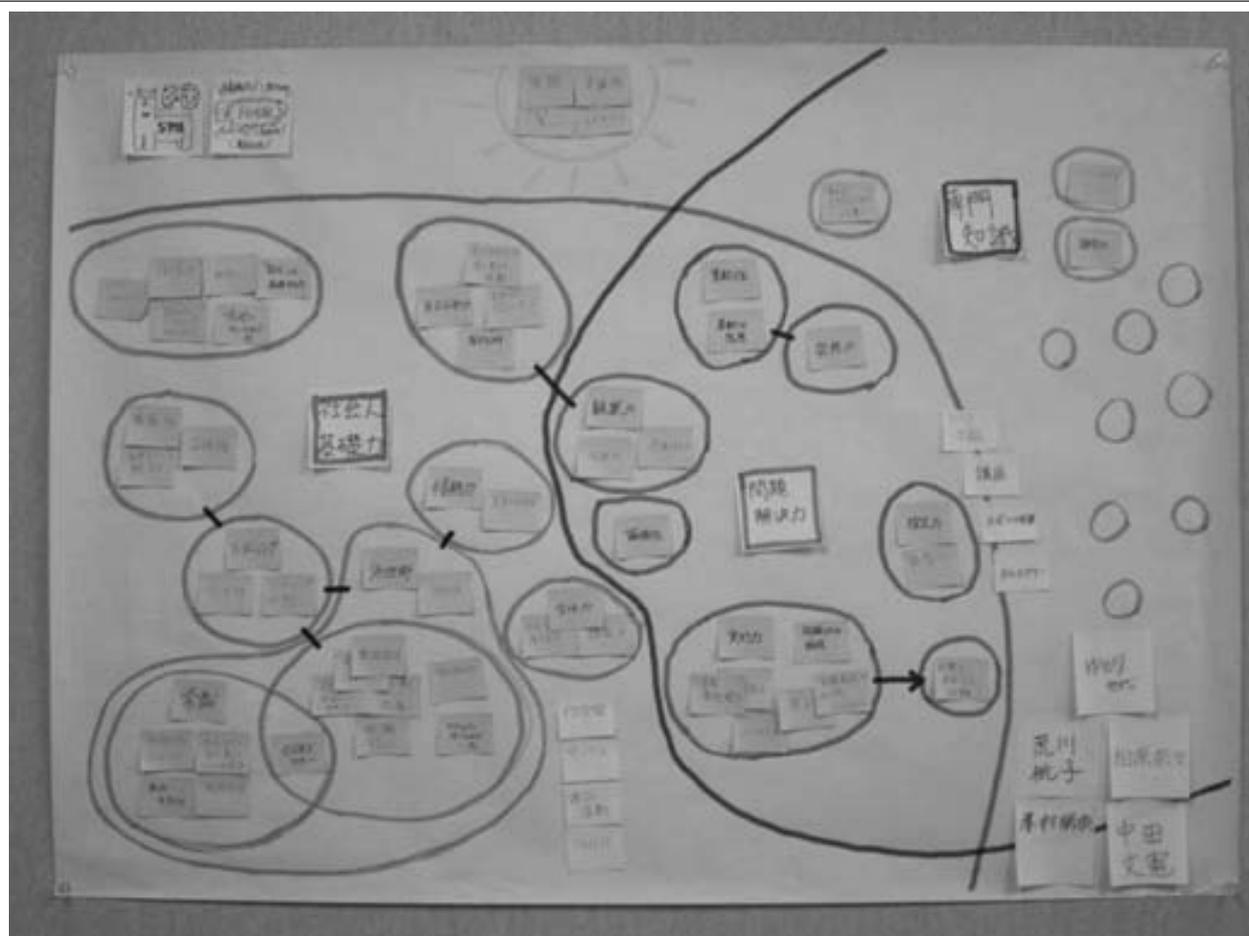
- ・性別：男性**56%**,女性**41%**,無回答**3%**
- ・所属：人間発達文化学類**25%**,行政政策学類**21%**,
経済経営学類**23%**,現代教養コース**5%**
共生システム理工学類**25%**,
無回答**0.02%**

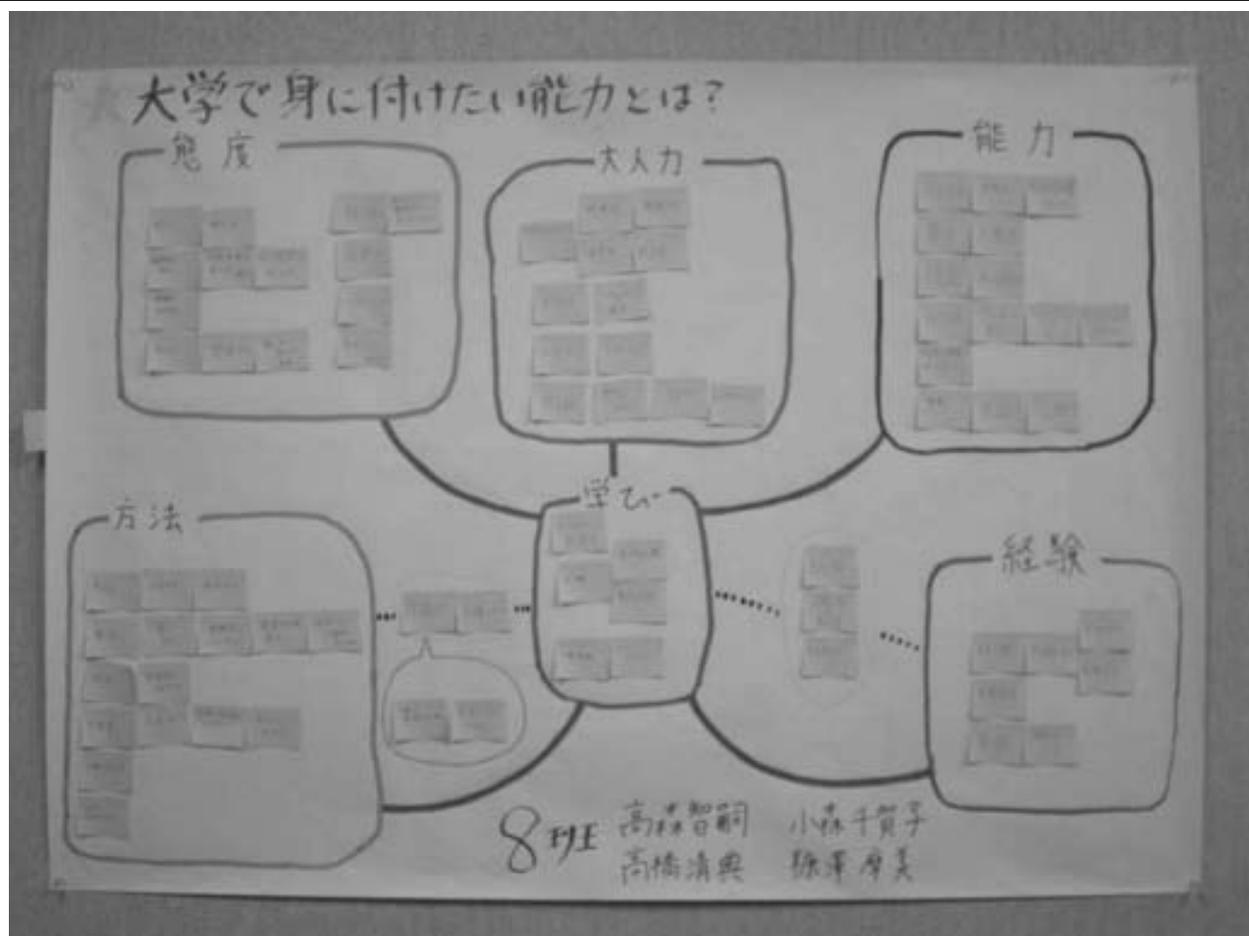
※あくまで参考



4.各班の報告 (KJ法の成果をまとめた模造紙の様子)







5. 参加者の目標設定とふり返りの内容

<p>参加者</p>	<p>1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。</p>	<p>2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。</p>
<p>教員 (副学長)</p>	<p>(1)健康でいること (2)学生、教職員そして自分自身の本当の思いを知り、理解すること (3)福島大学の教育の改善につながりうるポイントを2つ把むこと (4)教職員全員の名前を覚えること (5)学生の名前の半分程度は覚えること</p>	<p>(1)「大学で身につけるべき能力」というテーマは、3つのポリシーの前提となる「福島大学の教育目的」と重なり、学生・職員の方とのギロンを、今FD合宿で行っても、やはり相当程度共通する(各班の微差はありつも)ものだと感じたところです。 (2)ただし、微妙な差として出ている部分の議論を、さらに若干埋めることの意義があるようにも思ったところではあります。 (3)育成すべき力をどのような「方策」でという部分はあまりギロンできなかつたところですが、次年度、再来年度のFD合宿で、とくに共通教育の見直しとからめて進めるべきものと考えます。FD合宿の意義の再確認も、その中で行うべきでしょう。</p>
<p>教員 (人間発達文化 学類)</p>	<p>気づき、気づかせがたくさん有るといいですね。 学ぶ意味と教育の必要性には必ずずれが有ると思うのです。 それぞれの考えを共有し、互々自らを振りかえる機会にしたいと思えます。 事務の方は、こういった機会に話すことは初めてです。どんな思いでお仕事をしているのかお聞きして、共有できれば今ままで以上に意思が通い合うものと思えます。</p>	<p>グループワークはKJ法を中心に実施したため、有意義であった。討論では他者を否定しがちだが、KJ法ではすべての意見を受け入れられていることもよかつた点だが、分類することで下位の意見はより上位の意見に気がつき、更に自分の意見だけでなく、より広い考え方にも気付けられる。 私自身はちよつとしゃべりすぎたことが反省であるが、KJ法のスキルの一端を身につけることができ、たいへん有意義であった。 渡辺先生おつかれさまでした。</p>
<p>教員 (人間発達文化 学類)</p>	<p>学生が求める大学・教員の姿を知る。 職員にとって望ましい教員のありかたを知る。</p>	<p>専門知識の習得はもちろんのこと、学生は社会人としての基礎力アップのフォローを求めていることが分かつた。 正直、今自分が社会人としての基礎力アップを手助けすることは難しいが、自分の専門分野(=人文文学)の基礎=「人を知る」を少しでも伝えたいけれども思つた。 「職員にとって望ましい教員の在り方」について知ることはできなかつたが、こうした合宿をおして親ばくを深めることは大切だと思つた。</p>

<p>参加者</p> <p>教員 (人間発達文化 学類)</p>	<p>1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。</p> <p>積極的な意見交流をすること。 2日目の発表内容に関わる／関わらないに捉われず、様々な異なる立場からの率直な意見・感想・手応えを引き出し、促し受けとめられるようにすること。 時間配分を上手にすること。グループワークだけでなく2日目の行動でも。</p>	<p>2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなど自由に書いてください。</p>
<p>教員 (人間発達文化 学類)</p>	<p>様々な立場の人と話をする機会は大変有意義でした。ときおりハツとさせられる発言も多く、持ちかえって考えてみたいポイントも多かったです。とくにこの班では学類も3つ異なり、1年生・4年生・院生・卒業生とバランスもよく、楽しく話し合いをすることができました。 スケジュールに従って行動したが、報告準備と報告時間の配分については反省すべきものでした。(時間超過してすみませんでした)</p>	<p>目標はかなり達成されたが、やや自分の意図する方向へギロンを導いてしまい、学生・職員の方の意見を率直に聴けたが反省が残る。 学生がみな積極的で、ギロンが楽しかった。合宿に参加しない積極的でない学生からの意見、問題意識をどうすいあげるか、と考えさせられた。 限られた時間でブレゼンの準備をするのはいへんだったが、集中した有意義な時間だった。</p>
<p>教員 (総合教育研究 センター)</p>	<p>学生が、大学や大学教員に期待するものは何か、具体的かつ率直な意見を聞く。 「専門教育」に関する学生の考え方を知る。 社会に出てすぐに役立つことを身につけたいのか？ 知識・教養を深め、人間性を深めたいのか？</p> <p>学生の考えていることと、教職員が考えていることの違いを理解する。 授業で取り入れてみたいと思えるようなアイデアを1つでも得られれば良いな…。 へんとうえんを悪化させない。 福大の教育改善に資するアイデアも置きみやげとして残せるといいな…。 立場を超えて皆と仲良くなる。</p>	<p>学生との違いについては、思ったほど違いはなかったが、まとめる作業では「そんな風に考えてるのか」と思えることもあり、刺激になった。 「人々」が中心にあったことから、具体的な”人”の例を通して学習スキルを教えるものいいかなと思った。 ついつい長湯して、のどが…。 ワンストップサービスは良さげ。 班では皆でわきあいあいできた！（あとは体調さえ良ければさらに良かった）</p>

<p>参加者</p> <p>教員 (総合教育研究センター)</p>	<p>1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。</p> <p>各種アンケートから、大学で身につけるべき能力についての情報を提供するとともに、その情報がどのようにグループの話し合いにひびくのか、(あるいは、ひびかないのか)を注意しながら、積極的発言と傾聴を心がける。 (※調査から改善策へつなげるための企画の検証)</p>	<p>2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。</p> <p>情報提供については、おおむね簡潔に、また誘導しすぎない形で行えたと思う。各種アンケート結果は、話し合いの様子や、各班の発表を聞く限りでは、ほぼ望ましい形(ある程度参考としてもらえたが、議論を固くもしない)で使われたように思う。</p> <p>自班の発表では、各人のアイデアが、パズルのピースのように次々とはまっていって様子が快感だった。おもしろいものができたと思う。</p> <p>達成感を得ることができた。お疲れ様でした。ありがとうございました。 (※調査から改善策へつなげるための企画として、やはりFD合宿の場はかなりの有益だと再認識。あとは、ここででた意見をいかにまとめ、学内で共有するか、考えなければならぬ。)</p>
<p>教員 (地域連携課 A CF事務局 研究員)</p>	<p>(1) (参加者の範囲ではあるが)大まかな学生像を知る。 学生が「求めるもの」を知る。 学生に「必要なもの」を検討する。発見する。</p> <p>(2) 自分をふり返る。 教職員に(教育上)「必要なもの」を検討・発見する。 今後の目標を設定する。</p>	<p>(1)学生は意外(?)と教職員とのキヨリを感じている。 また、変な質問、ふさわしくない質問をしてしまったらどうしようという不安感を抱えている。失敗してもよい、失敗も成長の機会と捉えられる前向きなマインドが必要か。</p> <p>(2)教職員は学生に対してどんな意識を持っているのか、もって学生に伝えていく必要がある。また、教職員側からの「伝えたいメッセージ」の発信とともに、学生とのコミュニケーションの中で、更に「学生」について知ることが今後の目標である。</p>
<p>学生 (人間発達文化 学類 4年)</p>	<p>「大学で身につけるべき能力」をより沢山、幅広く見つけ出す。 自分の大学生活4年間を振り返り、「大学で身につけた力」を確認する。 「身につけたい能力」を身につけさせるときの具体的な方策(手段?)まで考えられたらいいなと思う。 グループの活動が円滑にすすむよう貢献する。 同じグループでも下の学生の子の考えを沢山引き出せたらいいなと思う。(今後のために!)</p> <p>楽しく、かつ充実した合宿になるよう、積極的に活動に取り組む。</p>	<p>「大学で身につけるべき能力」を系統立てて並べていくことができ、理解が深まった。</p> <p>自分の大学生活の経験をもとに、大学で身につけた力・身に付けたい力を整理することができた。</p> <p>具体的方策に関しては、個々の能力に対してではなく、「大学で能力を身に付けるために」という広い視点で考えたため、「すぐ実行できること」あるいは「具体的なこと」とは少し離れた結論になってしまったように思う。しかし、新しい大学のかたちをつくっていくことの大切さという将来的なビジョンを挙げることができたことは良かったと思う。</p> <p>グループの活動が円滑に進むよう努力はしたが、もう少しまわりの意見を聞き出す役割を担えたらよかったですと思う。</p> <p>他の班の発表を聞き、大学に求められる新たな役割を再認識した。学問だけでなく、社会に出る「大人」を育てる機関になりつつあると分かり、もって大学、教員、学生各々が出来ること、やらねばならないことを考えたいと思った。</p>

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。
学生 (人間発達文化 学類 4年)	今回で最後のFD合宿なので、3回分の経験を活かして楽しい学びにしたい。	トークテーマにそって、たくさん話しをすることができました。同じようなこと身に付けたい(させたい)と思っている班もあり、認識は意外と似ているのではないかと考えました。全体的に満足です。 夜の部は、教員と深い話をすることができました。このような機会が年に一度しかないのはとても残念です。互いを理解することから、良い組織(大学)は作られていくのではないのでしょうか。
学生 (行政政策学類 1年)	「日本戦後社会経済の発展と国民幸福度への影響」について のことを、交流して討論しています。新しい思い方はほいほいで す。 宿泊研修を通して、多くの人と交際したら最好了。 日本大学生の生活などを了解したいです。	「幸福度」についての話はあまりないですので、ちょっと遺憾です。しかし、宿泊研修は本当に楽しいです。 多くの人と交際して、友達になりました。 日本大学生の生活などをいっぱいに了解しました。これからも続いています。 皆さんはやさしくて、いろいろなおおかげで、なりました。ありがとうございます。この感謝の気持ちをもちつて中国に帰ります。
学生 (行政政策学類 4年)	自分の考えを積極的に発表すること 色々な人と普通に会話すること 堅く考えすぎないこと かといってふざけすぎないこと 最近咳が出るので、慣れない環境で体調を崩さないこと グループワークを楽しむこと	まず思った事。 「発表上手くいってよかった！」 もう少し原稿練ればよかったとか、台本練習しとけばよかったなど反省点はある ますが、時間内に間に合い、なおかつ早口にならなかったというのには以前で てなかったことなので、少し成長できたのかなと嬉しい気持ちです。 グループワークの際、自分の考えをためらうというのがなく、楽しく話し合いが できました。普段なかなか聞けない話が聞けたのでよかったなあと思いました。
学生 (行政政策学類 1年)	自分の視野を広げる 考えの幅も広げる 仲良くなる 積極的になる 後悔のないセッションにしていく 明るく過ごす	目標達成に相違なし！ 学年も学類も年齢も全く違う人達の中で意見を出し合うことができ、聞くこと ができて、視野も思考の幅も広がりました。特に、全員が全員、結構積極的に 話をしていたので、終始面白く楽しく明るく過ごしていくことができました。私は 今回のFD合宿は、朝風呂までできなかったという関係のないこと以外後悔はして いません！(今のところ) この班でもそうですが、他の人とも(年上の方が聞くと、ん？となるかもれませ んが)仲良くなれたと思います。 貴重な経験が出来ました。みなさん、ありがとうございます(o^)/*

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。
学生 (経済学研究科 1年)	FD合宿を通して、大学で身に付ける(身に付けさせる)べき能力から、社会(企業内教育)での適正な教育とは何かを探り、自分が受ける立場、指導する立場になった時に活かせるようにする。(今の問題が合宿で浮き彫りになると思うのが、改善のポイントとして役立てる。 ※社会人です)人脈を作る。	様々な班の発表から身に付ける(身に付けさせる)べき能力が判明した。同時に、実際にできている、できていそう、できていないであろう事項、そして、今後自分が進む上で足りない能力も浮き彫りになった。これからの社会人生活で、自分はもちろん新入社員の際、今回の結果から必要な教育を決定し、少しでも価値のある人材を育成できればと思います(自分も含めて。)他学類の学生との人脈も作れました。
学生 (経済学研究科 1年)	自分が考える大学で学ぶべき姿勢・能力について、(立場の違い)他のメンバーの考えや意見も参考にして再確認できるようにしたい。	この2日間をふり返り、他のメンバーやグループの考えや意見を聞いて、とても参考になり刺激になりました。そう感じる事ができたのは、たった2日間でもFD合宿のメンバーと共に楽しめたからだと思います。FD合宿とは、立場を越えた交流のできる最高の場であると感じられたことで、目標を達成することができました。この回をサポートして頂いたスタッフの皆さんをはじめ、メンバー全員に感謝したいと思います。ありがとうございます。
学生 (経済経営学類 4年)	大学で身につけるべき能力について考え、どのようにしたら8セメで身につけて卒業することができるかを模索する。ラスト1回の合宿を有意義なものにする。参加している全教職員、学生と交流を深める。	授業をうける!!(大学に行ってこそ大学生!!)学生という立場を活かし、様々な経験を積む。(感想) 4回目のFD合宿にして、最も深い議論をした回だったと思う。(時に行き詰ったり...)4年生になって、1年生のときに感じていた漠然とした大学という姿を、少しは有効に活用してこれたのではないかと思った。学生にうちに、色々な立場の方と議論やお話ができるFD合宿に参加することができて本当に良かった。来年がないのが信じられないが、残り半年の学生生活でもしっかりと成長したい。
学生 (経済経営学類 4年)	人の話を聞き、それぞれの意見がどう違うのかを理解したうえでまとめられるようにする。グループみんなが平等に発言できるように気を配る。結論から話し、誰にでも理解してもらえるようにわかりやすく述べる。	初めてKJ法というものを行ったが、整理して考えるには便利なツールだと思いが、それはあくまでツールにすぎず、結論を導くには自分の頭で考えるしかないと思った。発表するにはまず構造を理解してもらおうことが、1番分かりやすい説明の仕方だと思った。働きアリの法則が成り立ってしまうというのが驚きだった。

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。
学生 (経済経営学類 3年)	色んな方と交流する。 学生だけでなく、教職員さんの考えを知る。 全体テーマについて自分なりの答えを導けるようにする。	今回3度目のFD合宿でしたが、毎回参加するたびに新たな発見があり、今年もとても有意義な時間を過ごすことができました。 今回の全体のテーマは「大学で身に付ける(身に付けさせる)べき能力とは」ということでしたが、各班様々な視点からこのテーマに取り組んでおり、その中で自分なりの答えも導けたように思います。 全体の発表をきいていて思ったのは、「能力＝知識」だけではないのだということとです。やはり、大学生だからこそできる挑戦や失敗をするといった経験も、大学で身に付けるべき能力に深くかかわっているのだと思います。 また、大学期間だけでなく、その先のライフプランを見すえた能力も必要とされているのだと思います。 今回、各班の模造紙の内容を詳しく見ることが少し難しかったので、改めて見ることもできる機会があると嬉しいなと思いました。
学生 (経済経営学類 2年)	周りの話をしっかりと聞き、自分の考えを分かりやすく伝える。 また、人の意見を頭から否定しないが、メリットやデメリットは何かを様々な視点から常に考える。 良いところは参考にす。	周りの話を聞いたり、自分の考えは主張できたが、発表の際に、もう少し元気よくできたら良かった。 ただ、他の班の意見を聞いてみて、自分の班と同じ意見だったり、全然違う視点や発想があり、聞いていて参考になり感心することが多くて勉強になった。 またこのような研修があればぜひ参加したい。学校の講義だけではこのような経験はできないと思う。
学生 (経済経営学類 1年)	積極的に発言(グループワーク) 他の人のアイデアの共有。 「主体的な学び」にできればつなげられるような理解。 マナーは守る。 夜中に同部屋の人に迷惑がかからないようトイレに行く。(合宿討論会の時もそうだったから) 荷物は寝る前までにそろえておく。 いろんな人との垣根をとっばらう。	こういうことは大学では合宿討論会以来で、それなりにアイデアは共有できた。 夜中の11時に寝て、同じ部屋の人が夜中2時に部屋に入ってきた時起きた。 その時また寝ようとした時なかなか寝れなくて騒音を出してしまい、多分他人からは寝にくかったように感じる。後期、そして2年からの授業、その他自ら他人から学んだことを自主的に活用していきたい。

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。
学生 (現代教養コース 4年)	FD(大学教育改善)に資する個々の学びと経験 多くの人と話をし、様々な話をしたいです。	いろいろな人と話をしてみても、自分の中の常識が非常識であったことや、同じ目的を持っていても、その達成手段が人によって違うことがわかりました。また、コミュニケーション能力が不足していると感じたので、直していきたいと思っています。 同じ大学でも、学類等によりまったく違うんだと思いました。
学生 (共生システム 理工学類 3年)	大学で身につけるべき能力について ・自分の思う能力(身につけたいもの) ・他人の考える能力(生徒・先生・職員) について明確にした上で、今後に活かす手立てについて考える	社会人・教員・職員・フレッシュな一年生と、まったく異なる立場の人の学びに対する考えを聞いたこと、またグループワークを通して学びについて考えながら、同時に学べたことの2点について、特に、また今回FD合宿に参加させてもらってよかったと思いました。 同意できる点もあれば、正直よく分からなかったりした点もあり、多様な意見や考えに触れることが出来、また自分の中で参考にしたアイデアも見つけたり勉強になりました。 この短い時間でこんなにも得られるものがある、というのは毎年驚きます。来年もまた参加したいです。
学生 (共生システム 理工学類 3年)	FD合宿は初めての参加なのでとても楽しみにしてききましたが、学類や学年の違う人や、先生方と積極的に交流しつつ、自分の考えも相手に伝えることができるよう、楽しみながら研修に取り組みたいです。	目標としては達成できたと思います。 具体的に感じたこととしては、グループワークでたくさんの意見がでてきましたが、自分の考えつかないようなアイデアや提案が次々と出て、発表の形式や構図なども他の班とは異なる6班オリジナルのものができて、とても楽しくまとめることができました。また、発表を聞いて、どの班もオリジナル性があつて面白い発表ばかりで、いろんなアイデアを聞くことができてとても新鮮でした。班の中でも、学生はみんな学年も学類も違って、先生や職員さんともいいますが、同じ土俵に立ち、世間話に花を咲かせつつ、楽しく発表に向けて話し合い、意見交流ができました。
学生 (共生システム 理工学類 2年)	グループ内の話し合いにまず積極的に参加していくこと。 それぞれのメンバーの案の良いところ、そうでないところをしっかりと感じとりながら参加すること。 多くの人と交流をとること。 リフレッシュすること。	目標はおおむね達成できたと感じる。 様々な意見や捉え方を交換できた。 発表のための作成ではなく、議論や話し合いの末の発表にすることができたので、とても有意義であった。 ただ甘んじてしまった部分も多かった。もう少し主体性や自分を出していかれたらよかったと感じる。 大学の捉え方を考えたが、これからの新しい大学の案も出せてゆけたらよかったと感じる。

<p>参加者</p>	<p>1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。</p>	<p>2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなど自由に書いてください。</p>
<p>学生 (共生システム 理工学類 2年)</p>	<p>多くの意見を提案する。 同じグループの人の意見も組みながら、よりよい提案が行えるようにする。 他学類の人と仲良くする！ テーマに対する自分の結論を出せるようにする。</p>	<p>今回のFD合宿を通して、大学で学びたいこと、また、学んだ方がよいことを再認識することができた。単に勉強だけではなく、人との関わり方や社会に適応する能力も大学では学んでいきたいと感じた。2つを両立させていくのは大変だけれど、努力することによって大きな実をつけることができるので、4年間で大きな実をつけられるように多くの経験をして、たくさん自分の中に吸収できれば良いと思った。</p>
<p>学生 (共生システム 理工学類 2年)</p>	<p>教員、職員等、身分にかかわらずさまざまな人と話をする。 人の話をさえぎらないように気をつける。 いろんな人の考えを聞く。 のんびり過ごす。 温泉を楽しむ。 ねる。快眠したい… 脚を休ませる(とくに右脚)</p>	<p>プレゼンのいろいろな方法・工夫が見られた。 いろいろな考えを聞いた。(飲みとかで) 旅の話を聞いた。 初見の人との交流・交流のし方 配慮の方法を知ることができた。 食事、温泉をたんのうできた。 快眠でした。 自分の成長を感じられる機会となった。 グループワークで人生観や思考力につながるような話があった。 関わりがなかった人たちとも、今回のように楽しむことができることを知った。 異文化を知ることができた。 大学業務のなかなかな聞くとのことのない話を聞いた。 時間と都合があれば、またFD合宿に参加したい！</p>
<p>学生 (共生システム 理工学類 2年)</p>	<p>仕事先(新入生サポートセンター)で使える話を20コ発見。 新入生に伝えられるように話を深める。 まじめすぎず、変なコトも言う。 人とは違う視点に立つ。</p>	<p>必要な力は分かっても具体例がないと伝わらない。 経験がないと必要な力なのか分からない。 より深く伝えていくためには、もっとたくさんさんの納得できる具体例が必要だと感じました。合ゼミ、合同研究室発表は切実に欲しいです。</p>
<p>学生 (共生システム 理工学類 2年)</p>	<p>未だ漠然としている「大学で身につけるべき能力」を、他者の意見を聞きながら明確にする。 美味しい料理と温泉を楽しむ。</p>	<p>皆さんの話を聞いていろいろな考えがあるのだとよくなった。 プレゼン力・コミュニケーション力は実際やってみないと身につかないと思う。 今回参加して、自分の意見を口に出してみたり、人前で発表してみたことで、自分にまだ足りない(思いを分かりやすく伝える)ことなどが見えてきた。 料理は信じられないほど豪華で、温泉にゆつくり入れるほどよかったので、立場も年齢も異なる皆さんと意見を交わせた今回の合宿は、いい機会になったと思う。</p>

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなどに書いてください。
職員 (教務課)	FD合宿、特にグループワークにおいて、学生から出される新しい考え方や意見を今後の仕事に生かせるようによく聴く。(余計な口出しをしないようにする。)	学生としては、教職員に相談すること、その行為自体からハードルが高いことが理解できた。 ではどうするか、なかなかこれだというものが見つからないが、学生・教職員と一緒に考えていくことがそのキッカケになるような気がする。 余計な口出しをしない目標だったが、つい昔のことを話してしまった点は反省！！
職員 (教務課)	先生方、学生たちは、それぞれ何を大学で身に付けてほしいか、または、身に付けたいと思っ入学したか、さらに、その思いは現在変わったかを聞いてみたい。	結局、目標を忘れていて、聞きたいことを聞けずに終わってしまったが、最終的には、あたりまえだけど、大学は人生をどう生きていくかを考える、考えられる空間(時間)なのかなと思った。
職員 (教務課)	人の話を聞く 一歩先を見るようにする 職員ということを自覚しつつ、枠にとらわれないようにする	人の話を聞くことに関しては、問題なくできたのではないかと考える。しかし、その反面、自分の主張欲が刺激され、全体発表時にガマンするのが大変であった。次回はずっと積極的に発表に参加し、欲求のまま生きたいと思う。一歩先は、具体例を出すことができたので、良かったのではないかな。
職員 (教務課)	大学での学びを通して、学生は何を得ようとしているのか。教員は何を伝えようとしているのか。そこに職員はどう関わっていきけるのかを感じとりたい。	大学での学びの内容は様々で、学生が得たいもの、教員が伝えたいものも多様であった。その中でも特に印象深かったのは、どのような形の学びであっても「楽しむ」ことが最初にあるということであった。自発的な関心から楽しんで学ぶことができれば、身に付く力の質も変わってくる。職員として、学生、教員が楽しみながら学び、伝える環境をつくっていききたいと感じた。
職員 (施設課)	お互いの立場で意見交換などを行ないながら、大学について別な視点で考えてみる。	いろいろな意見交換をすることで、大変有意義なプレゼン資料が完成した。他の班の発表も様々で、自分では気づかない点もたくさんあり、学ぶことが出来た。

参加者	1. あなたの宿泊研修を通しての目標を書いてください。	2.2日間の宿泊研修をふり返ってみて、目標の達成状況や感じたことなど自由に書いてください。
職員 (施設課)	周りの意見をよく聞き、テーマに沿ってグループの進行に滞りをなくし、且つ自分の意見もはっきりと話せるようにする。グループでの自分の立場(立位置)を見極め、役割を把握すると共に、グループへの貢献をする。みんな楽しく、研修へ参加できるよう努める。グループ全員の意見を聞く。	グループワークでは、意見や解決方法などの意見も出すことができ、周りのグループの意見も聞くことができたとと思うが、自分の意見や、話題の主旨と違う内容を話し過ぎてしまったかなど、感じ、反省する場面も頭の中で考えていたりもしたので、気をつけたいということと、もっと気をつかわない所は気をつかわずに話せたらなどという気持ちがあり、反省している。いつものことながら、一人で頭で余計なことをいろいろ考えるすぎて、発言や提案にフンテンポの遅れを生じさせてしまったように感じる。来年は遅刻しないように気をつけたい。
職員 (施設課)	仕事上、ほとんど関わることのない、学生や教員と話をし、色々な考えや意見を聞いてみたい。	KJ法というものがわかった。仕事にも今後、生かしていきたいと思う。学生から教職員に要望したいことがたくさんあることがわかった。なるべく吸い上げたいと思う。また、このように要望をいえる機会をもっとつくるのも必要だと思う。一つの問題に対する各班のアプローチのしかたが様々で面白かった。学生さんやほかの教職員と色々話して、共通の体験をして、楽しかった。
職員 (役員室)	「主体的な学び」を具体的にイメージする。	「主体的な学び」に必要なことをグループディスカッションの中でいくつか挙げた。その中でも特に印象に残っているのは、 ・情熱を持つこと ・あたり前を疑うこと(批判能力) ※いずれも思考島よりだが、いずれも形式的に教えたり、教えられたりすることがとても難しいものであると感じた。 そうであるなら、常に上記のことを意識して自ら行動し、そうすることで周りの人や後輩にいい影響を少しでも与えていくことができたらいいなと思った。

大学で学びたいこと、学ばせたいこと
 —FD合宿を通じた「調査」と「改善」の連動の試み—



I 

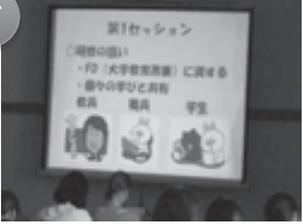
2013年度 福島大学FD合宿

II 

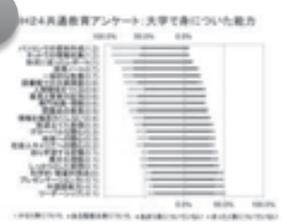
二本松岳温泉 9月28・29日

III 

教員8名、職員8名、学生20名

IV 

【第1セッション】ねらいとルール

V 

【第2セッション】アンケート共有

VI 

【第3～5セッション】KJ法

VII 

【第6セッション】1班報告 1

VIII 

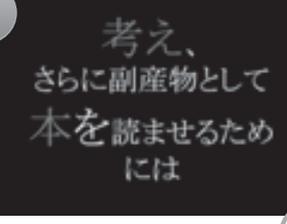
合宿の成果をHPで公開・共有

VII 

【第6セッション】2班報告 2

VII 

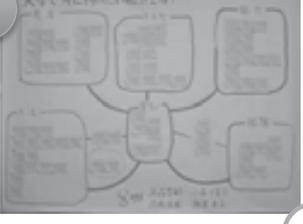
【第6セッション】4班報告 4

VII 

【第6セッション】7班報告 7

VII 

【第6セッション】3班報告 3

VII 

【第6セッション】8班報告 8

VII 

【第6セッション】5班報告 5

VII 

【第6セッション】6班報告 6

《福島大学『FD合宿』とは？》

I：FD合宿は、2009年度開始の宿泊型討議・学習会。

II：例年、夏季休業の最後の土日に（今年度は9/28-29）、二本松市岳温泉の旅館にて開催されている。

III：学生・職員・教員の三者で大学の課題を話し合う。
今年度は、教員8名、職員8名、学生20名が参加。

【FD合宿一日目】

IV：第1セッションでは、ねらい、ルールを確認。
今年度のテーマは「大学で身につけたい能力」。
各自がワークシートに自分の目標を記入。

V：第2セッションでは、話し合いの参考情報として、各種学生アンケートの結果を共有した。
（※共有したアンケート結果については別添資料参照）。

VI：第3セッションから第5セッションでは、KJ法を用いたグループワークを行った。
具体的な課題は次の通り。

- ・「大学で学びたいこと、学んでほしいこと」の構造化
- ・その能力獲得のための方策や課題
- ・2日目の報告資料の作成

【FD合宿二日目】

VII-1～8：第6セッションでは、各班が報告を行った。
Ex) たとえば7班からは、「考える力」「本を読む習慣」のための方策として「合ゼミ」の提案があった。

※最後に第7セッション「ふり返りと共有」にて、各自がワークシートに目標の達成状況や、話し合いで得た気づきなどを記入して、合宿終了。

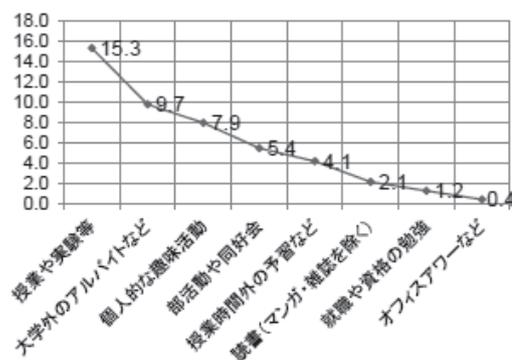
【合宿その後】

VIII：合宿での配布資料や、各班の報告内容、アイデアについては、総合教育研究センター 高等教育開発部門のホームページにて公開した。
その他、全学委員会などでも成果を共有。

Ex) 各種アンケート結果の共有より

「2年次学生の1週間あたりの活動時間」

◎H24共通教育アンケート：1週間あたりの活動時間



※読書習慣の不足？

Ex) 各班からの報告より

「7班の考える方策とは」

考え、
さらに副産物として
本を読ませるため

合同ゼミ説明会
(合ゼミ)

具体的に

サオリ(サークルオリエンテーション)と同じ時間帯で、
各教員のゼミ説明ブース
を設ける。

